
福祉人材に関する学校への取り組み調査 報告書

I 調査について

1 調査の趣旨と方法	1
2 結果の概要	2
3 調査結果の詳細	4

II 資料

1 調査票（調査項目）	25
2 委員名簿	32

平成28年12月

東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会

介護人材対策委員会

I 調査の趣旨と方法

1 調査目的

- (1) 都内高齢者福祉施設の学校や関係機関の取組み状況から若年層へ的高齢者福祉の理解促進や福祉人材確保・育成の現状と課題を明らかにするため。
- (2) 本会の研修会・講演会の企画や、国や東京都、区市町村に対する政策提案の上での基礎資料とする。

2 調査内容

高齢者福祉施設における福祉人材の確保・育成における学校や自治体への取組み状況、その関連情報。

3 調査対象

東社協 東京都高齢者福祉施設協議会 会員施設・事業所

4 調査時期

平成28年6月30日～7月20日

5 調査方法

FAXとメールにて調査票を配布し、インターネットのアンケート回答フォームによる回収。

6 回収状況

総計

対象	配布数	有効回答数	回収率 (%)
東京都高齢者福祉施設協議会 会員施設・事業所	119,1	219	18.4

配布数に対する全体の回収率と有効回答率はともに81.4%であった。

事業種別有効回答数 内訳

対象	有効回答数	構成比 (%)
特別養護老人ホーム	157	71.7
養護老人ホーム	10	4.6
軽費老人ホーム(ケアハウス)	4	1.8
デイサービスセンター	39	17.8
地域包括支援センター 在宅介護支援センター	9	4.2

Ⅱ 結果の概要

福祉人材が不足している中、都内の高齢者施設で福祉人材の育成や確保を目的に学校等と連携しながら多様な取り組みを実施していることがあきらかになった。

また、施設の体制が整わずに学校や自治体との連携が取れない課題がある中、連携をすすめていくために学校との地道な関係づくりや、処遇改善や専門のコーディネーター配置など関係を構築するために人員体制を整える必要性に迫られている現状もうかがえた。

○学校に対する働きかけしている高齢者福祉施設は、73.5%。

福祉人材の確保や育成を目的とした、学校に対する働きかけについて、「実施している」と回答した施設がもっとも多い(73.5%)結果だった。

また、現在取り組みを行っていない事業所のうち、過去に学校へのアプローチを試みた経験について「あり」と回答した事業所は22.8%に及んだ。

○高齢者福祉施設における学校への取り組み担当について、23.7%は「相談員」。

学校への働きかけを行う際に施設内で担当になっている職種について「相談員」がもっとも多い(23.7%)結果だった。ついで「施設長」(13.7%)の順になった。

○働きかけ先である学校種別について、66.5%は「専門学校」。

働きかけ先である学校種別について、「専門学校」が最も多く(66.5%)、ついで、「大学・大学院」(55.9%)の順だった。

○各種学校における対象学年について「中・高学年」が多い。

各種学校における対象学年について、「小学校5年生」(47.0%)、「中学校2年生」(84.1%)、「高校3年生」(67.1%)、「大学・大学院4年生」(81.1%)、「専門学校2年生」(76.6%)と回答があり、中・高学年に多い傾向がある。

また、取り組み頻度としてはどの学校種別も「年に1回」の回答した施設は、どの学校種別でも25%以上にのぼる。

○取り組み内容の傾向として、小学校から高校生までは「学び」、大学生や専門学校へは「就職」を意識したものが多い。

各種学校に対する取り組み内容について、「福祉・介護に関する授業」が小学校(50.0%)、中学校(43.2%)、高校(32.9%)が、「施設パンフレット等の配布」が大学・大学院(64.4%)、専門学校(71.0%)が最も多い結果だった。

○学校への取り組みが難しい要因について、「福祉・教育の行政担当で調整がない」「福祉・介護に対する評価の低さ」がともに13.2%

施設から学校への取り組みが難しい要因について「福祉・教育の行政担当で調整がない」「福祉・介護に対する評価の低さ」「福祉・介護に対する評価の低さ」がともにもっとも多い(13.2%)結果だった。

福祉人材に関する学校への取り組み調査結果（概要）

平成28年12月 / 東社協 東京都高齢者福祉施設協議会 介護人材対策委員会

- 福祉人材の確保や育成を目的に、高齢者福祉施設と学校や自治体との連携状況に関する調査の結果概要。都内高齢者福祉施設1,191施設（特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、デイサービスセンター、地域包括支援センター）を対象に平成28年6月30日～7月20日に実施。219施設より回答（回答率18.4%）。
- 学校への働きかけを行っている施設は73.5%（161施設）。学校種別では、専門学校と連携する施設が多い。なお学校種別における取り組み内容は、年齢層や進路決定など各学生の背景により異なる。
- 学校への働きかけが難しい理由として、「福祉・教育の行政担当間で調整がない」「福祉・介護に対する評価の低さ」が多い。また、「施設の体制不足」「必要性を感じられない」など、回答もあった。

1 福祉施設から学校への働きかけの状況

○福祉人材の確保や育成を目的とした、福祉施設から学校に対する働きかけについて、約74%の施設が実施している。

【福祉施設から学校への働きかけ】(n=219)

実施している	実施していない	検討中	以前実施していた	その他
161施設 (73.5%)	37施設 (16.9%)	16施設 (7.3%)	3施設 (1.4%)	2施設 (0.9%)

○働きかけ先である学校種別について、専門学校が最も多く、約25%の施設が実施している。

【学校種別働きかけ先】(n=161) * 複数回答

小学校	中学校	高校	大学・大学院	専門学校
6施設 (41.0%)	88施設 (54.7%)	82施設 (50.9%)	90施設 (55.9%)	107施設 (66.5%)

2 学校種別ごとの取り組み状況

○学校種別の取り組みの対象について、各学年の中・高学年への取り組みが多い傾向がある。また、取り組みの頻度としてどの学校種別でも年に1回程度の取り組みが多い。

【学校種別対象学年と取り組み頻度】(n=161) * 対象学年は複数回答

学校種別	小学校	中学校	高校	大学・大学院	専門学校
対象学年	5年生 31施設 (47.0%)	2年生 71施設 (84.1%)	3年生 55施設 (67.1%)	4年生 73施設 (81.1%)	2年生 82施設 (76.6%)
取り組み頻度	年に1回 35施設 (53.0%)	年に1回 57施設 (64.8%)	年に1回 37施設 (45.1%)	年に1回 33施設 (36.7%)	年に1回 28施設 (26.2%)

【調査対象】東京都高齢者福祉施設協議会の会員施設・事業所(1,191施設)

【調査期間】平成28年6月30日～7月20日

【回答の状況】回答率：18.4%

種別	件数	構成比
特別養護老人ホーム	157	71.7%
養護老人ホーム	10	4.6%
軽費老人ホーム(ケアハウス)	4	1.8%
デイサービスセンター	39	17.8%
地域包括支援センター・在宅介護支援センター	9	4.1%

3 施設及び自治体の担当・窓口の状況

【施設・事業所における担当】(n=219)

相談員	施設長	その他	法人本部事務局	事務	ボランティアコーディネーター	無回答
52施設 (23.7%)	30施設 (13.7%)	27施設 (12.3%)	18施設 (8.2%)	17施設 (7.8%)	12施設 (5.5%)	63施設 (28.8%)

【自治体における連絡調整窓口の状況】(n=219)

担当窓口あり	問合せ対応窓口あり	担当窓口なし	無回答
33施設 (15.1%)	23施設 (10.5%)	95施設 (43.4%)	68施設 (31.1%)

【自治体における連絡調整窓口の担当】(n=56) * 複数回答

施設数	福祉所管		教育所管		その他	
	26施設 (64.4%)	9施設 (16.1%)	16施設 (28.6%)	1施設 (1.8%)	11施設 (19.6%)	1施設 (1.8%)
区市町村数	19 (48.7%)	9 (23.1%)	11 (28.2%)	1 (2.6%)	1 (2.6%)	1 (2.6%)

4 学校への働きかけが難しい要因

○現在取り組みを行っていない事業所のうち、過去の学校へのアプローチの有無について、約22%が試みていた。

【学校へのアプローチ状況】(n=56) * 取り組み未実施の事業所が回答。

したことがある	したことがない	無回答
13施設 (22.4%)	44施設 (75.9%)	1施設 (1.7%)

○学校への取り組みが難しい要因について、「福祉・教育の行政担当で調整がない、福祉・介護に対する評価の低さが同率で多い。その他の内訳で多いのは、施設内の取り組み体制が整っていないことである。」

【学校への取り組みが難しいと考える要因】(n=219) * 複数回答

要因	回答数
福祉・教育の行政担当で調整がない	29施設 (13.2%)
福祉・介護に対する評価の低さ	29施設 (13.2%)
地元自治体に担当がない	22施設 (10.0%)
他分野から学校との連携依頼が多い	7施設 (3.2%)
学校長の方針	6施設 (2.7%)
担任や教科主任の意向	5施設 (2.3%)
その他	43施設 (19.6%)

【その他の内訳】* 主な回答が多いもの

小学校	中学校	高校	大学・大学院	専門学校
・ボランティア体験	・職場体験 ・ボランティア体験	・職場体験 ・ボランティア体験	・実習生受入 (福祉・教育) ・ボランティア体験	・実習生受入 (福祉) ・求人票送付 ・就職説明会

Ⅲ 調査結果の詳細

福祉人材に関する学校への取り組み調査 集計結果

平成28年12月
東京都高齢者福祉施設協議会
介護人材対策委員会

調査票配布数	1191
回答数	219
回答率	18.4%

【事業種別】

種別	件数	構成比
特養	157	71.7%
養護	10	4.6%
軽費(ケアハウス)	4	1.8%
デイサービス	39	17.8%
地域包括支援センター	8	3.7%
在宅介護支援センター	1	0.5%

【区市町村別】

種別	件数	構成比
島嶼部	0	0.0%
千代田区	2	0.9%
中央区	2	0.9%
港区	4	1.8%
品川区	2	0.9%
渋谷区	3	1.4%
新宿区	2	0.9%
文京区	2	0.9%
北区	6	2.7%
豊島区	6	2.7%
板橋区	5	2.3%
台東区	3	1.4%
荒川区	0	0.0%
足立区	10	4.6%
葛飾区	9	4.1%
墨田区	4	1.8%
江戸川区	6	2.7%
江東区	4	1.8%
中野区	7	3.2%
杉並区	6	2.7%
練馬区	17	7.8%
大田区	8	3.7%
目黒区	6	2.7%
世田谷区	12	5.5%
八王子市	8	3.7%
日野市	3	1.4%
町田市	6	2.7%
多摩市	0	0.0%
稲城市	2	0.9%
三鷹市	2	0.9%
調布市	5	2.3%
府中市	3	1.4%
小金井市	1	0.5%
国分寺市	1	0.5%
国立市	1	0.5%
立川市	4	1.8%
昭島市	4	1.8%
狛江市	2	0.9%
東大和市	3	1.4%
武蔵村山市	2	0.9%
武蔵野市	4	1.8%
小平市	2	0.9%
東村山市	6	2.7%
西東京市	2	0.9%
東久留米市	1	0.5%
清瀬市	2	0.9%
瑞穂町	2	0.9%
青梅市	9	4.1%
奥多摩町	1	0.5%
羽村市	1	0.5%
あきる野市	5	2.3%
日の出町	5	2.3%
檜原村	1	0.5%
福生市	4	1.8%

【連絡調整の担当】 複数回答含む

あり			不明	なし	「あり」「なし」が混在している地域
福祉所管	教育所管	その他			
0	0	0	0	0	
0	0	0	2	0	
0	0	0	1	1	
1	0	0	0	3	●
0	0	0	0	2	
2	0	0	0	1	●
0	1	1	0	0	
2	0	0	0	0	
3	0	0	2	1	●
1	0	0	3	2	●
2	0	0	0	3	●
1	0	0	1	1	●
0	0	0	0	0	
1	0	3	5	1	●
0	1	0	5	3	●
0	1	0	2	1	●
3	0	0	1	2	●
1	0	1	2	0	
0	0	1	2	4	●
0	1	0	3	2	●
0	0	3	4	10	●
0	0	0	4	4	
0	0	0	1	5	
0	1	0	3	8	●
1	0	1	2	4	●
0	0	0	2	1	
0	0	1	2	3	●
0	0	0	0	0	
1	0	0	1	0	
0	0	0	0	1	
0	0	0	0	0	
0	0	0	1	3	
0	0	1	1	2	●
0	0	0	0	2	
0	0	0	0	3	
1	1	0	0	0	
1	0	1	0	2	●
0	0	1	1	0	
0	0	0	1	5	
0	1	0	5	3	●
0	0	0	1	0	
1	0	0	0	0	
0	0	0	0	1	●
0	0	0	1	1	
0	1	0	5	3	●
0	0	0	1	0	
1	0	0	0	0	
0	0	0	2	1	●
0	0	0	2	3	
0	1	0	0	0	
0	1	0	0	3	●

19 9 11 32 39 23

問1 福祉人材の確保や育成を目的とした、福祉施設から学校に対する働きかけについて下記の設問をお答えください。

(1) 取り組みの状況についてお答えください。

(n=219)

選択肢	回答数	%
行っている	161	73.5%
検討中	16	7.3%
以前行っていたが、今は行っていない。	3	1.4%
行っていない	37	16.9%
その他	2	0.9%
無回答	0	0.0%

(2) 上記で選んだ取り組みを行っている理由をお答えください。

(自由記述)

問2 取り組みの状況について教えてください。(取り組みを実施しているの事業所のみご回答ください。)

(1) 働きかけを行っている学校の種別について教えてください。※複数回答含む

(n=161)

選択肢	回答数	%
小学校	66	41.0%
中学校	88	54.7%
高校	82	50.9%
大学・大学院	90	55.9%
専門学校	107	66.5%

I 小学校

(1) 取り組み全般についてご回答ください。(実施しているものすべて選んでください)

(n=66)

選択肢	回答数	%
学生向け施設パンフレット等の配布。	3	4.5%
教科(授業)の中で福祉・介護に関する内容を 取り上げている。	33	50.0%
生徒会(学生自治組織)との交流・連携。	1	1.5%
部活動・クラブ活動との交流・連携。	7	10.6%
教員に福祉施設主催の会合へ出席を依頼。	0	0.0%
学校主催の会合への参加。	11	16.7%
保護者会(PTA)との交流・連携。	5	7.6%
学校を会場とした、町会・自治会との交流・連携。	11	16.7%
その他	28	42.4%

(2) 代表的な取り組みを1つ挙げてください。

(自由記述)

(3) (2)における学校の対象者について教えてください。(あてはまるものすべて選んでください)

(n=66)

選択肢	回答数	%
1年生	13	19.7%
2年生	19	28.8%
3年生	25	37.9%
4年生	26	39.4%
5年生	31	47.0%
6年生	26	39.4%

(4) (2)はどのくらいの頻度で取り組まれていますか。(あてはまるもの1つ選んでください)

(n=66)

選択肢	回答数	%
毎日	1	1.5%
2~3日に1回	0	0.0%
週に1回	1	1.5%
半月に1回	1	1.5%
毎月	2	3.0%
2~3ヶ月に1回	6	9.1%
半年に1回	12	18.2%
年に1回	35	53.0%
その他	8	12.1%
無回答	0	0.0%

II 中学校

(1) 取り組み全般についてご回答ください。(実施しているものすべて選んでください)

(n=88)

選択肢	回答数	%
学生向け施設パンフレット等の配布。	3	3.4%
教科(授業)の中で福祉・介護に関する内容を取り上げている。	38	43.2%
生徒会(学生自治組織)との交流・連携。	4	4.5%
部活動・クラブ活動との交流・連携。	8	9.1%
教員に福祉施設主催の会合へ出席を依頼。	0	0.0%
学校主催の会合への参加。	6	6.8%
保護者会(PTA)との交流・連携。	1	1.1%
学校を会場とした、町会・自治会との交流・連携。	5	5.7%
その他	47	53.4%

(2) 代表的な取り組みを1つ挙げてください。

(自由記述)

(3) (2)における学校の対象者について教えてください。(あてはまるものすべて選んでください)

(n=88)

選択肢	回答数	%
1年生	39	44.3%
2年生	74	84.1%
3年生	41	46.6%

(4) (2)はどのくらいの頻度で取り組まれていますか。(あてはまるもの1つ選んでください)

(n=88)

選択肢	回答数	%
毎日	0	0.0%
2~3日に1回	0	0.0%
週に1回	1	1.1%
半月に1回	3	3.4%
毎月	2	2.3%
2~3ヶ月に1回	6	6.8%
半年に1回	10	11.4%
年に1回	57	64.8%
その他	8	9.1%
無回答	1	1.1%

Ⅲ 高校

(1) 取り組み全般についてご回答ください。(実施しているものすべて選んでください)

(n=82)

選択肢	回答数	%
学生向け施設パンフレット等の配布。	24	29.3%
教科(授業)の中で福祉・介護に関する内容を取り上げている。	27	32.9%
生徒会(学生自治組織)との交流・連携。	2	2.4%
部活動・クラブ活動との交流・連携。	19	23.2%
教員に福祉施設主催の会合へ出席を依頼。	0	0.0%
学校主催の会合への参加。	9	11.0%
保護者会(PTA)との交流・連携。	0	0.0%
学校を会場とした、町会・自治会との交流・連携。	4	4.9%
その他	32	39.0%

(2) 代表的な取り組みを1つ挙げてください。

(自由記述)

(3) (2)における学校の対象者について教えてください。(あてはまるものすべて選んでください)

(n=82)

選択肢	回答数	%
1年生	40	48.8%
2年生	50	61.0%
3年生	55	67.1%

(4) (2)はどのくらいの頻度で取り組まれていますか。(あてはまるもの1つ選んでください)

(n=82)

選択肢	回答数	%
毎日	0	0.0%
2~3日に1回	0	0.0%
週に1回	4	4.9%
半月に1回	2	2.4%
毎月	2	2.4%
2~3ヶ月に1回	12	14.6%
半年に1回	9	11.0%
年に1回	37	45.1%
その他	12	14.6%
無回答	4	4.9%

IV 大学・大学院

(1) 取り組み全般についてご回答ください。(実施しているものすべて選んでください)

(n=90)

選択肢	回答数	%
学生向け施設パンフレット等の配布。	58	64.4%
教科(授業)の中で福祉・介護に関する内容を取り上げている。	15	16.7%
生徒会(学生自治組織)との交流・連携。	0	0.0%
部活動・クラブ活動との交流・連携。	5	5.6%
教員に福祉施設主催の会合へ出席を依頼。	0	0.0%
学校主催の会合への参加。	22	24.4%
保護者会(PTA)との交流・連携。	1	1.1%
学校を会場とした、町会・自治会との交流・連携。	3	3.3%
その他	39	43.3%

(2) 代表的な取り組みを1つ挙げてください。

(自由記述)

(3) (2)における学校の対象者について教えてください。(あてはまるものすべて選んでください)

(n=90)

選択肢	回答数	%
1年生	30	33.3%
2年生	44	48.9%
3年生	59	65.6%
4年生	73	81.1%

(4) (2)はどのくらいの頻度で取り組まれていますか。(あてはまるもの1つ選んでください)

(n=90)

選択肢	回答数	%
毎日	1	1.1%
2~3日に1回	0	0.0%
週に1回	1	1.1%
半月に1回	1	1.1%
毎月	5	5.6%
2~3ヶ月に1回	15	16.7%
半年に1回	10	11.1%
年に1回	33	36.7%
その他	16	17.8%
無回答	8	8.9%

V 専門学校

(1) 取り組み全般についてご回答ください。(実施しているものすべて選んでください)

(n=107)

選択肢	回答数	%
学生向け施設パンフレット等の配布。	76	71.0%
教科(授業)の中で福祉・介護に関する内容を取り上げている。	16	15.0%
生徒会(学生自治組織)との交流・連携。	4	3.7%
部活動・クラブ活動との交流・連携。	2	1.9%
教員に福祉施設主催の会合へ出席を依頼。	0	0.0%
学校主催の会合への参加。	31	29.0%
保護者会(PTA)との交流・連携。	0	0.0%
学校を会場とした、町会・自治会との交流・連携。	3	2.8%
その他	43	40.2%

(2) 代表的な取り組みを1つ挙げてください。

(自由記述)

(3) (2)における学校の対象者について教えてください。(あてはまるものすべて選んでください)

(n=107)

選択肢	回答数	%
1年生	55	51.4%
2年生	82	76.6%
3年生	49	45.8%

(4) (2)はどのくらいの頻度で取り組まれていますか。(あてはまるもの1つ選んでください)

(n=107)

選択肢	回答数	%
毎日	1	0.9%
2~3日に1回	0	0.0%
週に1回	0	0.0%
半月に1回	8	7.5%
毎月	6	5.6%
2~3ヶ月に1回	19	17.8%
半年に1回	14	13.1%
年に1回	28	26.2%
その他	17	15.9%
無回答	14	13.1%

問3 取り組みにおける窓口や担当について下記の設問にご回答ください。

(1) 事業所における担当はどなたが担っていますか。

(n=219)

選択肢	回答数	%
施設長	30	13.7%
相談員	52	23.7%
事務	17	7.8%
ボランティアコーディネーター	12	5.5%
法人本部事務局	18	8.2%
その他	27	12.3%
無回答	63	28.8%

(2) 学校への働きかけを図る上で、地元自治体(区市町村)との連絡調整について担当窓口の状況をお答えください。
連絡調整の担当

(n=219)

選択肢	回答数	%
担当窓口がある	33	15.1%
特に担当窓口はないが、こちらの問い合わせに応じてくれる	23	10.5%
特に担当窓口はない。	95	43.4%
無回答	68	31.1%

対応する窓口 ※複数回答含む (担当窓口がある、問い合わせに応じてくれる窓口がある施設のみ回答)

(n=56)

選択肢	回答数	%
福祉所管	26	46.4%
教育所管	9	16.1%
その他	16	28.6%

問4 福祉施設から学校に対する働きかけについて取り組みが難しい状況についてご回答ください。

(1) 今までに学校へのアプローチをとったことがありますか。(取り組み未実施の事業所のみ回答)

(n=58)

選択肢	回答数	%
はい	13	22.4%
いいえ	44	75.9%
無回答	1	1.7%

(2) 近隣の学校への取り組みが難しい要因として考えられるものについてお答えください。
(あてはまるものすべて選んでください)

(n=219)

選択肢	回答数	%
地元自治体(区市町村)に担当がいなかったため。	22	10.0%
福祉と教育の行政担当で調整が行われていないため。	29	13.2%
他分野から学校との連携を依頼する場面が多いため。	7	3.2%
福祉・介護に対する評価が低いため。	29	13.2%
学校長の方針によるため。	6	2.7%
担任や教科主任の意向によるため。	5	2.3%
PTAや保護者の意向によるため。	0	0.0%
その他	43	19.6%

(3) (2)で回答した要因の解決のためにどのようなことが必要だと考えますか。
(自由記述)

問1 福祉人材の確保や育成を目的とした、福祉施設から学校に対する働きかけについて下記の設問をお答えください。

(1) 取り組みの状況についてお答えください。その他を具体的に

- ・ 求人票の配布
- ・ 上記を法人本部が代表して活動
- ・ 7月から行う
- ・ 中学校、福祉専門学校との連携
- ・ 小・中・高各学校への講師派遣
- ・ 職場体験を通じ介護を深く知ってもらう
- ・ 介護実習の受け入れや職業体験の受け入れ
- ・ 法人で実施

(2) 上記で選んだ取り組みを行っている理由をお答えください。

- ・ 福祉人材難は当該法人のみの問題でなく、広く排出していく必要性を感じているから。
- ・ 介護人材不足により今後、福祉系大学及び福祉専門学校への訪問を実施予定。
- ・ 地域交流の為
- ・ 学校訪問、説明会の開催等
- ・ 29年度、新施設開設のため多数の職員を採用したいので。
- ・ 生徒の皆さんにボランティア活動や障がい者、高齢者、地域に対する理解を深めてほしい。
- ・ 各専門学校へは、基本的に訪問し求人票を提出することを心がけ就職課担当職員と30分程度は話しをして学生の特徴やその年の就活状況の情報を収集している。
- ・ 求人票配布 学校訪問
- ・ 近隣高校のボランティア部との交流をきっかけとして、高齢者施設への理解、認知症の理解、施設の取り組みを紹介し、福祉への興味と理解を促し、未来の福祉人材を育てたいとする取り組みの一環。
- ・ 人材確保のため。
- ・ 法人の人材確保、人材育成、人材定着への取組み。方針により、学校訪問等実施している。
- ・ 介護という仕事を知ってもらう。介護の現場を体験してもらう。介護に興味を持ち、将来の進路について考える場合の参考にしてもらう。
- ・ 高校・専門・大学については採用活動に繋げるためとして人材確保を目的としているが、小中学校については、地域との繋がりを保ちながら、少しでも福祉に興味を持ってもらえるように取り組んでいます。
- ・ 地域に高齢者が住んでいる施設があることを知ってもらい、交流し関わりをもつことにより関心をもってもらう。まずはボランティアにつながればと考えるため。
- ・ 地域での活動の一環
- ・ 福祉人材の育成、確保及び地域社会への貢献。
- ・ 中学生の職場体験等の受入、専門学校に出向き就職説明の実施等
- ・ 高齢者及び施設についての理解を深めてもらうため。
- ・ 高校・専門・大学については採用活動に繋げるためとして人材確保を目的としているが、小中学校については、地域とのつながりを保ちながら、少しでも福祉に興味を持ってもらえるように取り組んでいます。
- ・ 福祉の仕事を知ってもらいたい。人事交流のきっかけになれば
- ・ 介護の仕事に少しでも興味を持ってもらうため。実習生を一人でも多く受け入れるため。卒業生が一人でも多く、就職に結びつけるため。
- ・ [1]社協(ボランティアセンター)の依頼。[2]次世代の支援人材の育成目的。[3]社会福祉法人としての地域福祉貢献目的。
- ・ 経営支援の努力実績加算がきっかけではあるが、近隣の中学、高校の職場体験を積極的に受け入れ感じてもらう、世間で大変だ嫌だと思われている部分、本人達がどのように感じるか、ふれあってもらう。
- ・ 福祉人材の育成、学校との関係づくり(職員採用)
- ・ 高齢者福祉を担う人材の確保及び地域貢献の一環として教育の場の提供を目的として実施している。又資格取得の要件として必要になる為、資格取得支援の一環としても実施している。
- ・ 今後の福祉人材の育成のため
- ・ 小中高については、啓発活動を行うことが何よりも未来の介護士を作るためにも重要だと考えるので。大学には卒業生をセミナーや説明会の講師として派遣する。
- ・ 地域との交流のため
- ・ 自施設を知ってもらい人材確保をするため
- ・ デイサービスがどういところなのか、知るきっかけづくりをして、将来の選択の中に福祉というものが上がってくるとよいなという思いから。
- ・ 新卒者の応募が減少しており、人材確保が困難なため。
- ・ 将来の福祉人材を養成、確保する
- ・ 実習先としての活用。またその先(就労希望・ボランティア)の働きかけ
- ・ 福祉人材の確保および育成。地域福祉の向上。
- ・ 福祉の先生と教務の先生と法人事業の説明を行わせて頂いている。
- ・ 新卒者を定期採用するため。
- ・ 学校訪問等を行っている
- ・ 退職した職員の補充。法人で新規開設した施設もあり、法人事務局でとりまとめて働きかけています。
- ・ 次世代を担う人材育成のため
- ・ 若い人材、介護福祉士の新しい専門知識を持った人材確保
- ・ 地域交流。多世代交流。
- ・ 新規学卒採用の為
- ・ 地域包括ケア構築のための人材育成として
- ・ 地域支援及び貢献
- ・ 交流等を行うことで、高齢者や福祉施設に対して、もっと身近に感じ、よいイメージを感じてほしい。
- ・ 地域支援及び貢献
- ・ 施設を理解することが、将来に向けた人材確保につながるため
- ・ 多世代の地域連携、長期的な人材の確保
- ・ 次世代の人材を確保するためには必要である
- ・ 介護人材育成と確保
- ・ 人材の確保
- ・ 若年者を将来に向けた、福祉人材の確保につなげるため。
- ・ 学生・教員・キャリアセンターへのアプローチ
- ・ 若い世代に高齢者を理解してもらうため。
- ・ 現状をしっかりと頂き、やりがいなどお知らせする。お互いに望んでいることを知る。
- ・ こちらから積極的に働きかけたわけではないが、近隣に学校が多く自然と関わる機会をいただいている。
- ・ 地域貢献。介護・福祉に触れる機会。施設入居者と地域・社会とのつながり。

- ・人材確保と高齢者福祉に興味を持ってもらう為。
- ・社会福祉協議会主催小学生対象のふれあい学習会。中学校では体験学習。
- ・新卒者または将来にわたった人材確保
- ・求人票の送付。懇意な施設への学校訪問。介護実習施設として連携。卒業研究の場を提供。研究発表会に出席。専門学校の入学式に来賓として出席。オープンキャンパスに協力。学園祭への利用者の参加。区内施設合同で求人説明会開催(高齢福祉施設合同で1回、人材センター、ハロワと共催で福祉の「仕事面接会」を1回行っている)。授業前に時間を作ってもらい、施設のプレゼン。近隣の養成校の教育課程編成委員を受任。ワークアスタディとして学生をアルバイト雇用(現在2名雇用)。学生ボランティアの受け入れ。
- ・介護人材の開拓が必要な時代であると感じているため
- ・一般で募集しても人材が集まらないため
- ・地域貢献と職員の募集のため
- ・地域との交流を図るため。高齢者や福祉事業に対する理解を深めて貰うため。人材確保のため。
- ・学校訪問
- ・多世代との交流をすることで、互いの生活や活動に刺激が生まれ、相乗効果が期待されるため。
- ・高齢者に対する理解を深める。介護職員人材確保に繋げる。
- ・人材を確保するため
- ・福祉施設への理解を広める。福祉施設で働くことへの理解を広める。それによって福祉人材の確保を期待する。
- ・福祉、介護、特別養護老人ホームというものを知ってもらい、もっと身近な仕事と感じてほしいため
- ・高齢者を理解し思いやりの心を育むため、市内の小中学校において認知症サポーター養成講座を実施している。
- ・新規採用に向けたPR。就職活動の現状の情報収集。学校との関係作り。
- ・学校からの体験学習の場としての依頼の基づき実施。派遣生徒の福祉への理解、居住地域での福祉施設の存在把握、体験を通して親・年長者への尊敬の思いの高揚を期待。
- ・介護職員の確保のため
- ・老人ホームについて理解及び知って貰う為
- ・採用活動(人材確保)が主であるが、実習生の受け入れを多く確保し、準職員から正職員への流れを作っている。
小学校・中学校の生徒に対しては、介護体験や福祉用具等の説明等を行い、福祉に興味を持てるような取組を行っている。
- ・介護職希望者が年々減少しており、働きかけをしないと人材の確保ができないため
- ・介護福祉士養成実習等の受入、介護等体験事業の受入など
- ・地域の生徒に、福祉の仕事に触れてもらいたい。
- ・人材確保
- ・学校からの依頼による
- ・介護の仕事を見てもらい、やりがい、楽しみ、必要性を知ってもらいたい。社会人となり、働く上でのマナー、姿勢を学んでもらいたい。
- ・人材確保及び社会貢献
- ・人材確保が難しいため
- ・高齢者福祉を理解し、将来を担う人材となるためのきっかけ作り
- ・若い世代を含む地域住民に、高齢者福祉施設や高齢者介護への理解と知識を深めてもらいたい。
- ・学校訪問、説明会
- ・介護職に興味を持ってもらい、将来的な人材の充実を目的としている。
- ・地域貢献。福祉社会の充実・発展。弱者にやさしい街づくりの構築。福祉人材の確保・育成。
- ・地域貢献。施設開放、利用者サービスの向上、世代間交流の機会
- ・将来の人材確保のため。
- ・交流することで、高齢者福祉施設を身近に感じていただき、施設が担う役割の理解とその仕事に対する魅力を知ってほしい。また、将来の人材確保にもつなげたい。
- ・実習生の受け入れ。担当教員への連絡。見学会の開催。
- ・地域交流、人材確保。
- ・社会福祉法人として地域への貢献として。高齢者理解の一環として。福祉人材の育成として。

問2 取り組みの状況について教えてください。(取り組みを実施しているの事業所のみご回答ください。)

I 小学校

(1) 取り組み全般についてご回答ください。(実施しているものすべて選んでください)。その他を具体的に

- ・施設訪問
- ・交流をはかる
- ・特養やボランティアの講義
- ・利用者と児童との里孫交流活動や職員による授業
- ・相互交流
- ・地域の高齢者との定期交流会
- ・入居者及び利用者との交流
- ・夏体験ボランティア・介護予防教室
- ・ピーボ君の家登録
- ・出前講座の案内
- ・世代間交流・福祉啓発
- ・介護(職場)体験(中学校)
- ・学校行事への参加
- ・総合学習
- ・課外授業
- ・小学生との交流会
- ・ボランティア活動
- ・体験ボランティア受入
- ・施設に小学校の生徒をよび利用者との交流を図っている。
- ・3年生の地域探検の受入れ・4年生の車いす体験の講師・5年生との交流・入学式、卒業式への出席・運動会の見
- ・利用者との交流
- ・施設見学交流会(入居者とのコミュニケーションや歌の披露)
- ・車いす体験の講師派遣
- ・福祉・介護に関する内容の出前授業を提案している段階
- ・学校に訪問し講座を実施
- ・運動会の見学
- ・小学生向け福祉体験

(2) 代表的な取り組みを1つ挙げてください。

- ・夏休みの学習課題で1日ボランティア体験
- ・毎年 小学校の入学式・卒業式に出席
- ・毎年 節分の豆まき行事に小学校の3年生が参加
- ・授業の一環として施設に來所しての音楽交流
- ・地域の自主グループの介護予防大会を体育館で開催、運動会で介護予防体操披露など。
- ・社会福祉協議会ボランティアセンターが事務局となり、小学校5年生から大学生までのボランティアを募っている。
- ・来ていただいた方には、その方にあった体験をしていただいております。
- ・施設に訪問し、利用者様とコミュニケーションを図る。歌や踊りの披露もある。
- ・総合的な学習として、小学生に施設に來てもらって、高齢者とレクリエーションを楽しんでもらったりしている。夏には小学校を会場とする地域のお祭りに、手伝いや出店をしている。
- ・総合的な学習の時間に児童に施設に來てもらい、歌などを披露してもらう。
- ・入居者と職員とで学校を訪問し、入居者がゲストティーチャーとなる
- ・総合的な学習の受け入れなど。
- ・施設体験に來た中学生を見学及び意見交換会の実施。
- ・総合的な学習として、小学生に施設に來てもらって、歌や笛を披露してもらったりしている。夏には小学校を会場とする地域のお祭りに、手伝いや出店をしている。
- ・各学校の総合授業や福祉授業にお招きいただき、高齢者施設や高齢者の特性、ボランティア活動について、高齢者疑似体験等を生徒に皆様に講義させて頂く。
- ・小学校主導で、1～2年生が毎年來園。歌や劇を披露してくれたり、肩をたたいてくれたりする。その他学校の展示会や観劇会に利用者も参加
- ・学校の総合学習のカリキュラムの中での課外実習施設として介護現場での歌や手遊びの訪問など。
- ・デイサービスを含む法人職員が小学校を訪問。介護体験(車いす操作、高齢者体験キット使用など)のプログラムの実施
- ・交流会と事前の説明会の開催
- ・毎年、ハロウィンに子供たちが仮装してきてくれる
- ・授業の中で施設の説明、介護体験(車いす操作、食事介助体験など)のプログラムの実施。(4年生)
- ・まち探索の中での訪問受け入れでは、施設の紹介を行っている。総合学習の中での高齢者とともに生きるにはを考えるための交流会の実施。その中で、施設の紹介やどのような職種が働いているかの紹介、高齢者と接するときのコツの伝授、車いすの紹介などを行っている。
- ・介護体験(車いす操作)のプログラムの実施。
- ・5年・6年の2年間に生徒と利用者が組みになり、継続的な交流を行う。地域住民や父母の協力を得ながら、生徒が修学旅行の報告に來たり、利用者が運動会見学や卒業式参加をしたりしている。
- ・総合的な学習の時間での訪問を通じ福祉への理解を深める。入居者様の学芸会鑑賞。
- ・車いす体験会を授業の1コマを使わせて頂き行った。
- ・生活科の授業における施設見学
- ・職場体験
- ・授業の中で高齢者との交流会を開催し、昔の遊びや歌などで楽しむ。
- ・施設の行事に参加依頼
- ・「ふれあいサロン」社会福祉協議会、民生委員と協働し小学生と地域の高齢者との交流会を月1回開催
- ・認知症サポーター講座(包括職員により)
- ・学童クラブの生徒による、施設イベント(納涼祭)の際の交流。
- ・高齢者体験
- ・子どもと高齢者が一緒に物づくりを行い交流する。
- ・学校行事に参加(餅つき、安全委員会)、地域の見守りに協力
- ・車いす体験、高齢者疑似体験等
- ・近隣の私立小学校全6年生が交流目的で來訪。施設の目的や業務内容、入居されている方の特性等説明する。
- ・児童の受け入れを行っており、楽器・踊りの披露やご利用者とのふれあい
- ・介護職員が小学校に行き、介護施設でのサービス等を説明している。
- ・総合学習において、児童が学校へ訪問。高齢者との交流及び福祉用具体験。
- ・総合的な学習の時間にて地域包括支援センター職員が学校訪問。認知症サポーター・キャラバンメイト養成講座などを実施。
- ・施設の説明、介護体験
- ・歌やダンスの交流会あり。小学校の運動会や作品展に招待を受け交流。
- ・施設への生徒の受け入れ・交流
- ・総合的な学習時間で、介護福祉士や生活相談員の仕事の紹介をしている。車いす操作の体験を含む。
- ・PTA役員等と地域行事等を一緒に開催。お子さんたちに施設行事等への参加(敬老会等でのプレゼンター役など)。お子さんたちの夏季休暇等時での施設での体験ボランティア受け入れ。放課後対策等としての親御さんとお子さんたちの自主グループ(けん玉教室)への施設入
- ・施設にて小学生と高齢者との交流会を実施。出し物やコミュニケーションを図り、学習の機会を作る。
- ・「総合的な学習」の時間にて子供達が施設に來て利用者との交流したり、施設職員が学校訪問して車椅子体験や高齢者疑似体験等行って
- ・施設長・相談員・介護職員・看護師・栄養士が学校を訪問し、5年生2クラスをグループ分けし、講義する。介護のこと、施設のこと、施設での仕事のこと、看護のこと、食事のこと、興味のあるものを選び、その教室で質疑応答を中心に理解を深める授業である。その後の授業で、各グループで調べたこと、知ったことをまとめて発表する。その後6年生になり、自分たちで考えた交流プログラムを持って訪問してくれる。昔あそびや、紙芝居、クイズやゲームなど自分たちで衣装や小道具を用意してくるので、利用者は大変喜ばれている。その子たちの有志が秋の祭りのボランティアに参加している。
- ・総合学習の授業として市内の小学校10校において認知症サポーター養成講座を実施。45分授業2コマの90分で、体験学習と紙芝居を取り入れた講義のプログラムを実施。
- ・社会福祉協議会主催夏体験ボランティア受入
- ・施設での交流会、小学校での介護体験授業の実施。
- ・(地域探検)生活相談員が受け入れの窓口となり生徒をフロアへ案内。働く職員から生の声を聞いてもらったり、利用者との交流を図っている
- ・近隣小学校の生徒が授業の中で当施設に來訪。演奏会や利用者との交流を通して高齢者福祉を学ぶ。
- ・認知症勉強会
- ・年数回の入所者・通所者との交流会。非常に楽しみにしている方が多い。年3～4校との交流あり
- ・総合的な学習の時間に相談員が学校訪問。施設の役割や高齢者の理解を深める講義中心のプログラムの実施。
- ・小学校に職員が向き、車いすの仕様や操作についてレクチャー後、学校周辺にて実際に車いすを使用して、乗車体験・操作体験を行う
- ・福祉・介護に関する内容の出前授業を提案している段階
- ・高齢者についてや施設を知ってもらうためにまず小学生に施設訪問してもらう。その体験をもとに総合的な学習の時間に施設職員が学校に行き、質疑応答等を行い理解を深めてもらう。最後に今迄の事を踏まえ、高齢者との交流を図ってもらっている。
- ・施設職員が近隣小学校に訪問、疑似体験による高齢者の理解と認知症サポーター養成講座の実施
- ・法人内施設での交流会、写生大会の会場提供
- ・小学校の授業に参画し、福祉体験学習(車椅子操作や高齢者疑似体験)を行っている。
- ・交流会の開催、授業の一環としての交流会
- ・授業の一環として町探検の受け入れを行い、施設内を案内・説明を行った。

(4)(2)はどのくらいの頻度で取り組まれていますか。(あてはまるもの1つ選んでください)。その他を具体的に

- ・ 要望に応じて実施
- ・ 一学期に一回ずつ
- ・ 平成27年度4回
- ・ 社協の依頼で行う
- ・ 要請があれば随時
- ・ 交流後、2～3日に1回自主的な訪問もある。
- ・ 年に1回実施を予定している
- ・ 年度の後半に2回の小学生の訪問と、施設職員が1回小学校を訪問している。

II 中学校

(1) 取り組み全般についてご回答ください。(実施しているものすべて選んでください)。その他を具体的に

- ・ ボランティア受入
- ・ 施設行事案内等
- ・ 職場体験学習
- ・ 小学生同様
- ・ 職場体験・ボランティア
- ・ 職場体験で数名が介護の体験等を行う
- ・ 職場体験実習
- ・ 特養やボランティアの講義
- ・ 職場体験及び納涼祭ボランティア
- ・ 職業体験の受け入れ
- ・ 施設祭りのボランティアの依頼
- ・ 職場体験・ボランティア体験の受け入れ
- ・ 訪問活動や職場体験の受入
- ・ 職業体験受け入れ
- ・ 介護体験受け入れ
- ・ 職場体験
- ・ ボランティアの受け入れ
- ・ 社会体験。
- ・ 職場・体験学習の受け入れ
- ・ 職場体験
- ・ 夏体験ボランティア。介護予防教室
- ・ 福祉講話
- ・ 中学2年生の職場体験
- ・ 施設内見学実習
- ・ 介護体験
- ・ インターンシップの受け入れ
- ・ 職場体験事業への参加
- ・ 総合学習
- ・ 納涼祭に参加
- ・ 職場体験実習の受け入れ
- ・ 施設での職場体験
- ・ 職場体験学習受け入れ
- ・ 職場体験授業の一環
- ・ 職場体験等の受け入れ
- ・ 職場体験
- ・ 体験学習としての場の提供
- ・ 生徒、教員との交流・体験ボランティア
- ・ 職場体験の受入れ。
- ・ 職場体験学習の受入れ
- ・ 職場体験事業受入
- ・ 職場体験
- ・ 職場体験の受け入れ
- ・ 職場体験
- ・ 福祉体験の受入
- ・ 職場体験の受入
- ・ 福祉・介護に関する内容の出前授業を提案している
- ・ 学校より体験依頼の受け入れ
- ・ 職業体験
- ・ 授業の一環として体験学習等の受け入れ

(2) 代表的な取り組みを1つ挙げてください。

- ・ 夏体験ボランティア、職場体験を受入
- ・ 毎年 正月・七夕の2回 近隣中学校の合奏団が演奏会を実施
- ・ 学校運動会への参加
- ・ 認知症サポーター養成講座の開催
- ・ 夏祭りのボランティアを学校を通して募集し、利用者地域のボランティア、職員と交流を図っている。職場体験施設として活用いただいている
- ・ 介護職による介護体験指導。体験学習受入。
- ・ 職場体験
- ・ 施設での介護体験
- ・ 総合学習にて中学3年時に認知症サポーター研修実施
- ・ 体験学習の受け入れ。
- ・ 体験学習の受け入れ。
- ・ 希望により介護の職場を体験し、その研究成果を学校で全校生徒の前で発表する
- ・ 体験学習及びび施設行事のボランティア活動。
- ・ 職場体験の授業で来る生徒の受け入れをしている。例年3校から依頼があり、1日を通じて介護補助や傾聴の体験をしてもらっている。
- ・ 中学2年生職場体験実習で、3日間

- ・各学校の総合授業や福祉授業にお招きいただき、高齢者施設や高齢者の特性、ボランティア活動について、高齢者疑似体験等を生徒に皆様に講義させて頂く。
- ・職場体験の受入
- ・学校から依頼を受けて、職業体験の場として施設での受け入れを行っている。
- ・中学校の総合学習の枠組みで、学生が介護助手的な活動を、介護現場で体験する。
- ・ボランティア体験学習の機会を持つ。総合的な学習の時間にて施設の介護職が学校訪問。高齢者疑似体験、車いす体験。
- ・施設祭りのボランティアを通して高齢者施設を理解して頂く。
- ・職場体験・ボランティア体験のオリエンテーションの中で、施設の紹介、働いている職種の紹介などを行っている。お客様と実際に触れ合う中で、施設の存在意義などを考えてもらっている。
- ・職場体験受入
- ・利用者と散歩に出かける
- ・授業の課題としてボランティア活動を支援している。
- ・実習生の受入。
- ・ボランティア部の活動の場として
- ・職場体験
- ・介護及び職場体験
- ・職場体験等で区内の2箇所の生徒を受け入れ、施設説明や介護体験を実施。
- ・介護及び職場体験
- ・体験学習の受入
- ・施設行事に参加を依頼
- ・生徒による施設訪問、交流会
- ・進路指導の一環としての職場体験なので、施設の説明、ご利用者との会話、趣味娯楽活動の手伝い等。
- ・夏休みを利用して施設での介護の仕事を学んでもらう。(配茶・お話し相手・配膳・)
- ・介護体験(話し相手、雑用)
- ・職場体験授業・演奏披露(行事招聘)
- ・9～15時までの間、職員の仕事を見たり、配膳など軽作業の手伝いをする。
- ・総合的な学習の時間において、施設を訪問し、施設の説明、車いす、入浴場等の用具を説明。
- ・職場体験の受け入れ、ボランティアの受け入れ
- ・職場体験として毎年希望する生徒を2日間受け入れている
- ・授業の一貫として体験学習をデイサービスで、様々な活動を行って頂いている
- ・施設の説明、介護体験
- ・3日間の介護体験。特養ホームは入所者の心身の状況から難しいためデイサービスで体験してもらっている。
- ・職業体験、福祉の仕事についての講演
- ・職場体験学習として受け入れを行っている
- ・介護体験(車いす操作、食事介助体験など)
- ・総合的な学習の時間にて地域包括支援センター職員が学校訪問。認知症サポーター養成講座などを実施。
- ・インターンシップとして受け入れ、介護体験(車いす操作、食事介助体験など)のプログラムの実施。
- ・近隣中学校の職場体験の受け入れ
- ・施設の説明、介護体験
- ・車椅子操作体験。ご利用者との傾聴。納涼祭での演奏学を披露。
- ・施設内でのボランティア活動
- ・2日間の日程で、清掃・消毒、レクリエーション、車いす操作等を施設内で体験する。
- ・福祉施設に従事する専門職として、職務内容について講演した。管理栄養士・介護福祉士・社会福祉士等
- ・地域の自主防災ネットワークグループを通しての相互交流。
- ・中学生が施設を訪問。施設の説明、介護体験を行うなどの職場体験を実施。
- ・学校主催の職場体験を受け入れている。ボランティアクラブの生徒を納涼祭等で手伝いに来てもらい高齢者理解に繋げている。
- ・職場体験の受け入れに際し、事前学習として福祉について説明し、車いす体験等を実施している。
- ・授業の一環として職場体験実習を受け入れている。
- ・地域中学校のボランティア部が月2回来園し、利用者とのレクリエーションをしたり、コミュニケーションをはかっている。
- ・体験学習の受入れ。施設にて傾聴・環境整備等のプログラムを実施。
- ・総合学習における体験学習として、生徒が体験来所。入居者のお話、レクリエーションの補助、車いすの操作等実施
- ・「命の朝顔」と称し、いのちを尊ぶ思いを繋げる活動。亡き先生の机より、12粒の朝顔の種が見つかり、生徒が先生の思いを受継ぎ育てた朝顔を施設利用者が受取り育て、次に出来た種を返却する。
- ・3日間の職場体験の受入れ。
- ・職業体験の受入れ
- ・職場体験学習の受入れ
- ・総合的な学習の時間にて施設の介護職、相談員が学校へ訪問し介護体験(車イスの操作)などを行っている。
- ・中学校の総合的な学習の時間において、施設長が学校を訪問し、高齢者について講義をおこなう。
- ・職場体験に来てもらっています。
- ・介護体験として生徒を受け入れている。
- ・総合的な学習の時間にて施設の介護職が学校訪問。施設の説明、介護体験(車いす操作、食事介助体験など)のプログラムの実施。
- ・学校の総合学習の一環で職場体験の受け入れを行い、介護業務の体験をしてもらう。(軽介助、環境整備、コミュニケーション等)
- ・職場体験で受け入れ
- ・職場体験
- ・毎年、中学校のカリキュラム(職場体験)の一環で、生徒の受入をしている。(利用者とのコミュニケーションや余興、掃除、食事の片付けの)
- ・区内の中学校6～7校の職場体験(2年生対象)を受けている
- ・総合的な学習の時間にて、介護の現場で体験。
- ・吹奏楽部の慰問演奏会の開催。
- ・生徒が施設でカレンダー作りなどのボランティア活動を行っている
- ・職場体験の受け入れ、ボランティアの受け入れ
- ・市内3校より職場体験・ボランティア体験を受け入れている。
- ・生活相談員とケアワーカーで組みになり、パワーポイント等を使用して、施設や仕事内容などの福祉授業を実施
- ・職場体験学習の受け入れ
- ・授業の一環として体験学習等の受け入れを行い、利用者とのコミュニケーションをとったり、介護体験としてシーツ交換や清拭巻き等行っ

(4)(2)はどのくらいの頻度で取り組まれていますか。(あてはまるもの1つ選んでください)。その他を具体的に

- ・夏場、及び、要望に応じて開催
- ・3月
- ・平成27年度2回

- ・年に3回程度
- ・3日間
- ・社協の依頼で行う
- ・取り組みを始めたところ
- ・8月から11月毎月
- ・要請あれば随時
- ・年に2回
- ・3校実施
- ・複数の学校から各年1回実施。
- ・3校対象。各年に1回。
- ・年2校、1校3名、3日間程度
- ・各学校3日間を年1回設定
- ・3～4校の1年生(毎年1月～3月)2年生(毎年6月～7月)

Ⅲ 高校

(1) 取り組み全般についてご回答ください。(実施しているものすべて選んでください)。その他を具体的に

- ・合同防災訓練
- ・論文作成等の協力
- ・職業体験・障子貼りに来所
- ・学校訪問等
- ・訪問時にパンフレット配布のほか、施設見学会のご案内や行事のご案内もしている。
- ・区主催の施設バスツアー協力
- ・就職説明に学校訪問
- ・インターンシップ
- ・特養やボランティアの講義
- ・職業体験の受け入れ
- ・市民講師も派遣。
- ・施設祭りのボランティア依頼
- ・ボランティア受入や職員による学校での授業
- ・教育実習の受け入れ
- ・ボランティア実習の受け入れ
- ・介護体験受け入れ
- ・学校からの依頼で介護の仕事についての講義を行っている。
- ・夏体験ボランティア・介護予防教室
- ・夏休みの体験ボランティア
- ・介護実習受け入れ
- ・施設見学の受入
- ・インターンシップの受け入れ
- ・生徒による施設内の植木や花の入れ替え
- ・ハローワーク新卒求人表
- ・ボランティア受け入れ
- ・奉仕体験の受け入れ
- ・体験ボランティア
- ・ボランティアの受け入れ
- ・認知症サポーター養成講座
- ・体験ボランティアの受入
- ・特別支援学校生徒の職場体験受け入れ
- ・ボランティア活動の協力
- ・認知症サポーター養成講座の実施を提案している
- ・新卒求人を持参
- ・職場体験

(2) 代表的な取り組みを1つ挙げてください。

- ・年1回、警察・近隣高校と施設の防災訓練にて合同実施。その際、車椅子操作等を介護体験。
- ・卒業論文等の作成で協力依頼のあった際のインタビューの実施。
- ・福祉施設への職業体験やインターンシップ。ボランティア部による障子貼り体験。
- ・説明会の開催、先輩職員との面談
- ・都立高校の市民講師として9年間携わっています。講義、職場体験を通して生徒たちに介護の魅力ややりがいを授業の中で伝えている。また、教諭にも。介護のネガティブなイメージを払拭するには直に伝えることが先決です。
- ・総合授業改め「福祉体験プログラム」として特養相談員による学校訪問。特養・通所・短期を含め高齢者の身体的な特徴・高齢者へのエチケット・高齢者疑似体験などを盛り込んだプログラムを実施。
- ・夏体験ボランティアと求人訪問活動他
- ・区主催の区内高校等への施設見学バスツアーに協力。当センター施設見学や、職員による事業紹介、活動紹介などを実施
- ・現場に2週に1回1時間程度、高齢者とのふれあい、レク活動等の活動、介護職員の仕事の補助、認知症等の理解等の勉強会を開催。
- ・職場体験や実習受け入れ施設として活用いただいている。
- ・体験学習受入
- ・コミュニケーションや買う後の補助的な作業をし、介護の現場を知る。
- ・職員が学校に出かけ認知症などにつき説明している。
- ・法人本部人材育成担当にて、採用活動(人材確保)を目的として訪問をしている。他にも高校福祉コースの市民講師を月2日程度法人本部が行い技術を教えている。
- ・福祉授業に社会人講師を法人より派遣。
- ・法人本部人材育成担当にて、採用活動(人材確保)を目的として訪問をしている。他にも高校福祉コースの市民講師を月2回程度法人本部が行い技術を教えている。
- ・総合学習の時間に、介護職が訪問し、介護体験(車いす操作等)を実施し、後日、現場での体験ご、振り返りも授業として実施。
- ・各学校の総合授業や福祉授業にお招きいただき、高齢者施設や高齢者の特性、ボランティア活動について、高齢者疑似体験等を生徒に皆様に講義させて頂く。
- ・学校が主催する卒業生による在校生に向けた就職報告会に参加
- ・行事へのクラブ活動のボランティア招聘

- ・ 学校から依頼を受けて、職業体験の場として施設での受け入れを行っている。
- ・ 施設の祭りに茶道部が参加
- ・ 授業やクラブ活動を通して施設で行われている活動に加わってもらっている。
- ・ 職場体験、ヘルパー実習の受入
- ・ 総合学習の時間に、施設の清掃、利用者へのインタビュー、車いす操作などを行っている。
- ・ 夏祭りにおけるボランティア活動
- ・ 福祉ボランティアの説明を職員が出前で行っている。
- ・ 学校の授業に相談員が講師として招かれている
- ・ 当法人夏祭りへのボランティア参加
- ・ 全国の学校に直接訪問して、具体的に指導教師と面談させて頂いています
- ・ 教育実習の受け入れ
- ・ 授業の課題としてボランティア活動を支援している。
- ・ 実習生の受入。
- ・ ご利用者とのコミュニケーション。アクティビティ活動の補助。
- ・ 学校訪問
- ・ 施設行事時のボランティア受入れ
- ・ 吹奏楽部の演奏会を開催してもらう。
- ・ 認知症サポーター養成講座
- ・ 訪問にて就職に関する説明
- ・ 介護主任が介護の仕事の魅力について授業の一環として全2年生対象に話しをした。
- ・ 職場体験(対話・労力提供)
- ・ ボランティアの受け入れ
- ・ 近隣の私立高校ボランティア部生徒の定期訪問。生徒会役員同行することがある。他校生徒会との合同訪問有り。
- ・ デイサービスでのゲーム補助・お茶出し・話相手等の活動体験
- ・ 介護体験、学校訪問
- ・ 就職実績のある学校・先生との連携
- ・ 隣接する都立の特別支援学校の授業の一部として実施している
- ・ インターンシップとして受け入れ、介護体験(車いす操作、食事介助体験など)のプログラムの実施。
- ・ 職場見学の案内
- ・ 募集要項の配布
- ・ 施設内でのボランティア活動
- ・ 高校の合唱部がクリスマス会に訪問して、歌の披露その他で会を盛り上げてくれる。
- ・ 対象高校に対し、求人個別訪問により、施設見学依頼それにより、就職試験希望に結びつける。
- ・ 市のボランティアセンターを通じてボランティアの受け入れを行い、施設説明、介護体験などを実施。
- ・ 奉仕体験を受け入れ、高齢者とのコミュニケーション等により人と人とのつながりを体験してもらっている。
- ・ 授業の一環として職場体験実習を受け入れられている。
- ・ 就業体験実習の受け入れ。利用者の食事準備、下膳、アクティビティ参加等のプログラムを実施。
- ・ 高校において、福祉の仕事の紹介などを授業で行う。今年度からのスタートで、年3回程度開催予定。夏休みには、見学会、施設でのアルバ
- ・ 和太鼓クラブに演奏依頼
- ・ イベント(行事)の進行ボランティアとして受け入れ。
- ・ 認知症サポーター養成講座
- ・ 社会福祉協議会主催の体験ボランティアを受け入れ、施設職員が講師となり施設の説明、介護体験(主に車椅子乗車体験、操作説明)を実施
- ・ 総合的な学習の時間に施設の生活相談員・介護職員が学校訪問。施設の説明、介護体験(車いす操作、食事介助体験など)のプログラ
- ・ 特別支援学校の進路指導の一環としての職場体験の受け入れを行い、介護業務を体験してもらう。(軽介助、コミュニケーション、環境整備
- ・ 近隣の高校の茶道部に出張野点を依頼し、利用者との交流を図っている。
- ・ 夏のボランティア体験への参加及びインターシップの受け入れ
- ・ 学校のカリキュラムにおいて、高齢者福祉施設の役割等の説明の実施。
- ・ 就職説明会や見学、職場実習などの実施
- ・ 施設内の行事などで吹奏楽部による演奏会を依頼しています。また、今後高校生のための職業体験受け入れも実施予定です。
- ・ 吹奏楽部の受け入れ(年1回)、ボランティア部の活動受け入れ(洗濯物整理・週1回)
- ・ 職場体験の受け入れ
- ・ 求人票を持参し、仕事の内容を説明しながら交付。
- ・ 求人票・施設パンフレットを持参説明し求人活動をしている。
- ・ 管弦楽部のフルメンバーのコンサート(多目的ホール)及びアンサンブル(施設デイルーム複数箇所)演奏の実施
- ・ 授業の一環で体験学習として受け入れを行っている。また、施設長が授業の講師として訪問もしている。インターシップの受け入れも行う

(4) (2)はどのくらいの頻度で取り組まれていますか。(あてはまるもの1つを選んでください)。その他を具体的に

- ・ 依頼時
- ・ 障子貼りは半年間週1程度
- ・ 基本は年1回ですが要望があれば随時
- ・ 社協の依頼で行う
- ・ 18回/年
- ・ 半年ごとに一月間程度
- ・ 学校からの依頼によるので不定期。
- ・ 希望時
- ・ 要請あれば随時
- ・ 月2~3回
- ・ 7月・8月
- ・ 電話でのやり取りで相互に情報交換
- ・ 1年生全員(8クラス)を年4回に分けて受けいる
- ・ 随時(受入れ要請時)
- ・ 複数の学校から各年1回実施
- ・ インターンシップは随時受け入れ
- ・ 各学校3日間を年1回設定

IV 大学・大学院

- ・ (1) 取り組み全般についてご回答ください。(実施しているものすべてを選んでください)。その他を具体的に
- ・ 資格取得のための実習受入

- ・ 学校訪問等
- ・ 高校同様
- ・ 区、区社協等と共催のイベントでの出張講座や事例発表
- ・ 実習生の受け入れ
- ・ 求人票の配布
- ・ 人材募集要項配布
- ・ 実習生の受入れ
- ・ 学生ボラを行事で招いている
- ・ 資格取得支援
- ・ 実習生の受け入れ
- ・ 教職課程の介護体験受入
- ・ 施設・設備等の有効活用
- ・ 介護体験等学生の受け入れ
- ・ 実習・ボランティア・見学の受け入れ
- ・ 夏体験ボランティア・介護予防教室
- ・ 介護体験キャンプ、施設見学会
- ・ 夏休みの体験ボランティア
- ・ インターンシップ、アルバイトの受け入れ
- ・ 介護体験キャンプのPR
- ・ 実習生の受け入れと求人票の送付
- ・ 納涼祭参加
- ・ 実習の受け入れ
- ・ 介護実習受入れ
- ・ 介護等体験の受け入れ
- ・ 実習生の受入れ
- ・ 法人セミナーへのご案内
- ・ 学校訪問による情報提供
- ・ 実習の受入
- ・ 実習生とボランティアの受入れ
- ・ 介護福祉士・社会福祉士実習受け入れ
- ・ 社会福祉施設実習及び体験ボランティアの受入
- ・ 職場実習
- ・ 大学のゼミとの交流
- ・ 教職過程の学生の受け入れ
- ・ 学校訪問活動
- ・ 学校訪問など
- ・ 就職課を通して就職説明会に参加している
- ・ 求人票・パンフレットの送付
- ・ 施設行事の参加と高齢者との交流
- ・ 教職課程の実習生受け入れ
- ・ 実習・体験ボラの受け入れ

(2) 代表的な取り組みを1つ挙げてください。

- ・ 社会福祉士、介護福祉士等、資格取得のための実習受入
- ・ 説明会の開催、先輩職員との面談
- ・ 学校主催の説明会に参加。
- ・ 人形劇ボランティアの受け入れ。グループホームの利用者向け。
- ・ 懇意にする教授の講義を一部いただき、お話しする機会があります。
- ・ 区、区社協等と共催のイベントでの出張講座(年10回)や事例発表
- ・ 社会福祉士実習生の受け入れ(2校)・学生アルバイトの受け入れ
- ・ 求人票の配布
- ・ 就職説明会、実習生の受け入れ
- ・ 就職説明のため学校訪問の実施。
- ・ 介護施設についての講義。実習受入。
- ・ 求人票の配賦の外に大学の依頼によって説明会などに参加している。
- ・ 施設が地域住民を招いて行う各施設の「納涼祭」や「秋祭り」の学生ボランティア依頼を法人本部が代表して案内して参加(模擬店販売の手伝い等)をもらっている。
- ・ 就職説明会への参加。施設行事へのボランティア勧誘など。
- ・ 施設が地域住民を招いて行う各施設の「納涼祭」や「秋祭り」の学生ボランティア依頼を法人本部が代表して案内して参加(模擬店販売の手伝い等)をもらっている。
- ・ 実習の受け入れ。職場見学。就職案内。ボランティア受け入れ。
- ・ 市内または近隣の介護福祉科のある大学の就職課と実習担当教員を訪問して、情報交換しながら関係の維持に努めている
- ・ 法人主催による実習校との意見交換会を毎年実施
- ・ 教員免許取得のための体験実習受け入れ
- ・ 教員免許取得に掛かる介護等体験事業の実施施設として学生を積極的に受け入れている。
- ・ 学生ボランティアの募集。就職説明会。
- ・ 就職のセミナーや説明会を学校で開く際に、卒業生を講師として派遣
- ・ 敬老会のコンサートに芸大の学生が演奏
- ・ 書類・パンフレットを送付
- ・ 学校主催の就職フェア等への参加。OBによる学校訪問、ゼミでの講演など。
- ・ 社会福祉援助学科、看護学科の実習を通年で複数校受け入れている
- ・ 教職課程の介護体験受入
- ・ 地域住民に対して学びの機会を提供等
- ・ ケア調査や業務改善の取り組みに教員に参加していただき、共同研究を実施
- ・ 企業説明会等への参加
- ・ 教師との話し合い。
- ・ 先生との会合
- ・ 夏祭りのボランティア参加
- ・ 卒業生とともに就職説明会へ参加。

- ・介護体験等学生の受け入れ
- ・教員課程における実習受け入れ。社会福祉士実習の受け入れ。インターンシップ受け入れ。
- ・教育実習生の受入。
- ・施設採用PRビデオの送付
- ・部活動の学生たちに来てもらい、懐かしい曲と一緒に歌ったりして楽しむ時間を持つ。
- ・実習意見交換会
- ・より良い実習を行うため介護福祉士・社会福祉士・看護師養成校の実習担当者と年に1回実習についての意見交換会を法人として行っている。毎年12、3校の参加がある。
- ・就職説明会の企画・実施
- ・学校訪問
- ・教職課程の介護等体験の受け入れ
- ・お年寄りの想いに寄りそう活動を通して、学生に介護の素晴らしさを感じてもらいたい”という思いから、20代の職員を中心として介護体験キャンプを軸に、介護の魅力を伝えていく取り組みを行っています。大学、専門学校に介護職が訪問し先生や学生に人材確保に向けた介護のイメージアップ活動、施設見学会、介護体験の場を設け活動している。
- ・デイサービスでのゲーム補助・お茶出し・話相手等の活動体験
- ・介護の体験や施設の説明、高齢者福祉についてなどカリキュラムを組む。
- ・学校訪問
- ・介護体験キャンプをPRする機会やポスターの掲示をさせてもらい、学生に介護体験キャンプに参加してもらい取り組み
- ・教員試験の実習施設として受け入れている
- ・納涼祭で車椅子を介助。介護系の専門学校・短大の生徒さんへ、施設の説明と施設内見学会を行う。
- ・採用説明会・採用試験の実施
- ・学校の授業で、福祉人材への期待を話したり、実習前後での受入施設としてのレクチャー・講評を行う。
- ・法人からのアプローチとして、実践発表会へ学生や教員に参加案内。学校行事等への出店協力など。
- ・介護実習受入れや学校主催の勉強会、事例研究発表会に参加。
- ・実習指導担当者の懇親会に参加。就職説明会を開き施設職員と交流を行う。
- ・介護等体験の積極的受入れ、行事等のボランティア受け入れ
- ・学校主催の就職説明会にて講師として出席。学校主催の就職相談会に複数事業所とともに参加。
- ・相談援助実習として、専門職の養成に協力している。
- ・施設見学
- ・教員免許法の特例による介護等体験事業における実習生の受入
- ・現場実習の受入れ、イベント(行事)の進行ボランティア、アルバイト先として受入れ。
- ・介護福祉士・社会福祉士実習受け入れ
- ・教育職員免許法の特例による社会福祉施設介護等体験事業
- ・総務課と一緒に施設職員が学校訪問し、施設の説明を行う。
- ・社会福祉士養成カリキュラムの社会福祉施設実習を受け入れ、施設概要の説明、サービスの一部を体験。
- ・利用者とのコミュニケーションを取ってもらい、勉強に繋げてもらう。
- ・学校を訪問し、学生の就職活動の情報収集及び採用選考への応募勧奨。
- ・職場体験・インターンシップ
- ・福祉活動をテーマにしているゼミの学生と交流を持ち、取組みに協力している。
- ・年間4～50名の教職課程の学生を受け入れている
- ・法人や施設の行事へのボランティア活動での交流、学校訪問し、採用セミナーや行事などへの参加のお誘い
- ・出身校の先輩にあたる介護職員が就職後の体験を伝える機会をもっている。
- ・就職説明会や見学、職場実習などの実施
- ・定期的な学校訪問を行い、施設採用担当者と学校の就職指導担当者との関係づくりを行っている。
- ・就職を通して就職説明会に参加している
- ・ボランティア活動の一環として実施しているダンス交流会に参加してもらい高齢者との交流を行う。
- ・大学での特別講義への生活相談員の派遣
- ・行事等へのボラ依頼
- ・実習生の受け入れ

(4) (2)はどのくらいの頻度で取り組まれていますか。(あてはまるもの1つ選んでください)。その他を具体的に

- ・年10～12回
- ・年に2回
- ・年に数回
- ・年に2回
- ・5～6回/年
- ・随時
- ・8月から11月
- ・要請あれば随時
- ・28年度は施設見学会4回、1Day介護体験1回、介護体験キャンプ2回8月実施予定、学校訪問プレゼンは適
- ・7月・8月
- ・希望があれば随時
- ・介護体験キャンプは夏場に数回実施
- ・就職説明会6月～10月 月に5回設定
- ・適宜
- ・複数の学校から各年1回実施
- ・年に10日～24日の実習を数回。
- ・随時
- ・授業での体験ボラ積極的受け入れ
- ・教育職員免許法の特例による社会福祉施設介護等体験事業

V 専門学校

(1) 取り組み全般についてご回答ください。(実施しているものすべて選んでください)。その他を具体的に

- ・資格取得のための実習受入
- ・学校訪問等
- ・訪問求人活動
- ・施設見学会
- ・区、区社協等と共催のイベントでの出張講座や事例発表
- ・実習生の受け入れ

- ・ 求人票の配布
- ・ 実習生の受け入れ
- ・ 学生ボラを行事で招いている
- ・ 福祉の専門学校に訪問し就職の為の概要を説明
- ・ 学生ボラを行事で招いている
- ・ 就職セミナー
- ・ 介護実習生の受け入れ
- ・ 実習生の受け入れ
- ・ 実習受入
- ・ 卒業式に参加
- ・ 実習生の受入
- ・ 実習生へアプローチしている。
- ・ 講師として授業を持たせてもらっている
- ・ 授業における講師として派遣
- ・ 就職説明会の開催。
- ・ 介護実習の受け入れ
- ・ ジョブカフェへの参加等
- ・ 夏体験ボランティア・介護予防教室
- ・ 介護体験キャンプ
- ・ AO・福祉体験ボランティア
- ・ インターンシップやアルバイトの受け入れ
- ・ 担当教員と連携を密にしている
- ・ 介護体験キャンプのPR
- ・ 求人票の送付
- ・ 納涼祭に参加
- ・ 求人表を郵送
- ・ 介護実習受け入れ
- ・ 実習生等の受け入れ
- ・ 法人セミナーへのご案内
- ・ 学校訪問による情報提供
- ・ 体験ボランティア
- ・ 介護福祉士・社会福祉士実習受け入れ
- ・ 実習生の受け入れ
- ・ 介護福祉士養成実習の受入
- ・ 職場実習
- ・ 職場体験の受け入れ
- ・ ボランティア活動の協力依頼
- ・ 学校訪問活動

(2) 代表的な取り組みを1つ挙げてください。

- ・ 社会福祉士、介護福祉士等、資格取得のための実習受入
- ・ 説明会の開催、先輩職員との面談・訪問
- ・ 就職課の先生とのパイプを太くする。専門学校就職説明会出席の積極的働きかけ。
- ・ 学校が近接(徒歩3分)にあるので、ユニット型特養の見学を授業の中に組み込んでいます。
- ・ 文京区、区社協等と共催の「アクティブ介護 文京」での出張講座や事例発表への参加
- ・ 介護福祉士実習生の受け入れ
- ・ 求人票の配布
- ・ 就職説明のため学校訪問を実施している。
- ・ 実習受入
- ・ 専門学校主催の実習連絡会等への参加。専門学校主催の就職フェアの参加。
- ・ 施設が地域住民を招いて行う各施設の「納涼祭」や「秋祭り」の学生ボランティア依頼を法人本部が代表して案内して参加(模擬店販売の手伝い等)をしてもらっている。
- ・ 就職説明会への参加。施設行事へのボランティア勧誘など。
- ・ 施設の概要や給与等の具体的な説明し、終了後個別に話す機会があり、質疑応答を実施する。後日個人からの施設の見学等を実施し就職へと繋げてゆく
- ・ 施設が地域住民を招いて行う各施設の「納涼祭」や「秋祭り」の学生ボランティア依頼を法人本部が代表して案内して参加(模擬店販売の手伝い等)をもらっている。
- ・ 実習の受け入れ。施設見学。就職案内。ボランティア受け入れ。
- ・ 市内または近隣の介護福祉科のある専門学校の教員を訪問して、情報交換しながら関係の維持に努めている
- ・ 法人主催による実習校との意見交換会を毎年実施
- ・ 就職を希望する職員へ学校の一部スペースを借り、相談コーナーを設置させてもらった。
- ・ 学校の授業において高齢者福祉の実際についての説明を実施
- ・ 介護福祉士の資格取得に掛かる介護実習実施施設として介護実習生を受け入れている。又介護実習生指導者講習会修了者を配置することで、積極的に後進の育成に取り組んでいる。
- ・ 学生ボランティアの募集。就職説明会。
- ・ 書類・パンフレット等を送付
- ・ OBによる学校訪問
- ・ 施設パンフレット等の配布、アルバイト求人
- ・ 実習生に法人や施設のアピールをしている
- ・ 実習生の受入
- ・ 学校行事へ職員が参加している。
- ・ 学校行事に参加している。
- ・ 夏祭りのボランティア参加
- ・ 就職見学説明会を4月から毎月実施。地方まで出向き、家賃補助など整備されているところをPRしています。
- ・ 就職を希望する対象とした面接方式の会合等に出席したり、ボランティア等体験していただいている
- ・ 介護福祉士実習の受け入れ。社会福祉士実習の受け入れ。就職説明会の実施。
- ・ 学校を訪問し就職をあっせんして頂くように依頼。実習生の受入。
- ・ 施設採用PRビデオの送付
- ・ 学校訪問

- ・ 毎年、1ヶ月(4回)授業を行わせていただき、福祉、介護の魅力、自施設のPR等を行い、採用活動を行わせてもらっています。
- ・ 福祉専門学校等で講義を請け負っている
- ・ 実習意見交換会
- ・ より良い実習を行うため介護福祉士・社会福祉士・看護師養成校の実習担当者と年に1回実習についての意見交換会を法人として行っている。毎年7、8校前後の参加がある。
- ・ 就職を希望する学生を対象とした福祉施設の見学。
- ・ 区内の福祉施設で構成された、連絡会主催による集団就職説明会の開催。
- ・ 就職説明会の実施
- ・ 福祉専門学校生徒の現場実習を受け入れ、介護過程等の指導を行っている。
- ・ 就職を希望する学生を対象に、施設見学やジョブカフェへの参加
- ・ 就職説明会への参加
- ・ 実習の受け入れ
- ・ 卒業生が主体としている、同窓会の役員として、学校の生徒会との交流を図っている。
- ・ お年寄りの想いに寄りそう活動を通して、学生に介護の素晴らしさを感じてもらいたい”という思いから、20代の職員を中心として介護体験キャンプを軸に、介護の魅力を伝えていく取り組みを行っています。大学、専門学校に介護職が訪問し先生や学生に人材確保に向けた介護のイメージアップ活動、施設見学会、介護体験の場を設け活動している。
- ・ 福祉専門学校AO入試の学生対象で、デイサービスにてゲーム補助・お茶出し・話し相手等の活動体験を行う
- ・ 介護の体験や施設の説明、高齢者福祉についてなどカリキュラムを組む。
- ・ 学校訪問、就職説明会の参加、
- ・ 合同就職説明会の案内
- ・ 介護実習受け入れ
- ・ 卒業見込みの学生を紹介していただいている
- ・ 介護体験キャンプをPRする機会やポスターの掲示をさせてもらい、学生に介護体験キャンプに参加してもらい取り組み
- ・ 職場見学の案内。募集要項の配布。
- ・ 福祉学校宛てに求人票を送付
- ・ 納涼祭で車椅子を介助。介護系の専門学校・短大の生徒さんへ、施設の説明と施設内見学会を行う。
- ・ 採用説明会・採用試験の実施
- ・ 就職先として斡旋を依頼
- ・ 就職を希望する学生を対象としたジョブカフェに参加している。
- ・ 就職を希望する学生に対して、随時施設見学を実施。
- ・ 介護実習受け入れや学校主催の勉強会、事例研究発表会に参加。
- ・ 実習指導担当者の懇親会に参加。就職説明会を開き施設職員と交流を行う。
- ・ 実習生等の積極的受け入れ、行事へのボランティア受け入れ
- ・ 授業の一環として職場体験実習を受けている。
- ・ 施設見学
- ・ 学校に電話を入れ、卒業された方で就職先を探している方がいれば、紹介して頂けるよう依頼する。
- ・ 社会福祉協議会主催夏体験ボランティアの受入
- ・ 現場実習の受け入れ、イベント(行事)の進行ボランティア、アルバイト先として受け入れ。
- ・ 「看取り介護」「ユニットケア」等について、職員が学校授業で講義
- ・ 教育職員免許法の特例による社会福祉施設介護等体験事業
- ・ 実習生の受け入れ。学校主催の就職説明会に参加し、施設説明と先輩職員からの話をする。
- ・ 主に介護福祉士養成実習第2段階及び第3段階を受け入れ、特養の理解、介護の実践をおこなっている。
- ・ 利用者とのコミュニケーション取ってもらい勉強に繋げてもらう。
- ・ 学校を訪問し、学生の就職活動の情報収集及び採用選考への応募勧奨。
- ・ 職場体験の受け入れ
- ・ 施設で職場体験として受け入れ
- ・ 施設のイベントや行事にボランティアとして協力してもらっている。その後、施設に就職したケースがある。
- ・ 学校訪問し、採用セミナーや行事などへの参加のお誘い
- ・ 就職を希望する学生を対象とした施設での説明会を実施している。
- ・ 音楽療法を勉強しているサークルの学生が、デイの活動の一環として実施している。
- ・ 就職説明会や見学、職場実習などの実施
- ・ 教育実習の受入
- ・ 学校主催の就職活動セミナーや就職説明会(ジョブカフェ形式)に参加させてもらっています。
- ・ 教員との懇談会を実施
- ・ 学校主催の就職説明会や実習指導者連絡会に参加している。
- ・ 求人票・パンフレット持参訪問し求人活動をしている。
- ・ 動物セラピーの専門学校生が犬をつうじて利用者の触れ合いの場の提供
- ・ 施設見学会の開催
- ・ 就職説明会に参加。ボランティア募集を通じた交流。
- ・ 実習の受け入れ
- ・ 介護実習の受け入れ

(4)(2)はどのくらいの頻度で取り組まれていますか。(あてはまるもの1つ選んでください)。その他を具体的に

- ・ 年4回
- ・ 年10～12回(総じて)
- ・ 年に2回
- ・ 年に数回
- ・ 年に数回
- ・ 年に2回
- ・ 5～6回/年
- ・ 1ヶ月(90分×4回)

問3 取り組みにおける窓口や担当について下記の設問にご回答ください。

(1)事業所における担当はどなたが担っていますか。その他を具体的に

- ・ 事務長
- ・ 統括している事務部門
- ・ 内容に応じて、包括等
- ・ 介護係長

- ・ 介護部長
- ・ 高・専・大は本部が担当窓口
- ・ 介護職
- ・ 地域包括職員
- ・ 施設長と福祉課長
- ・ 高・専・大は本部が担当窓口
- ・ 事業課長
- ・ 人材育成担当
- ・ 法人内他施設相談部長
- ・ 本部 総務
- ・ 人材対策室
- ・ 福祉係主任
- ・ ボランティア担当
- ・ 養護係長
- ・ センター内担当職員
- ・ キャンプ実行委員
- ・ 医務福祉課長
- ・ 副施設長
- ・ 介護体験キャンプ実行委員、介護係長
- ・ 広報・ボランティア委員スタッフ
- ・ 採用関係については法人事務局、その他については概ね施設長
- ・ 内容によって担当分け
- ・ 介護課主任
- ・ 介護課長
- ・ ボランティア担当、実習受入れ担当
- ・ 介護サービス係長
- ・ 窓口は事務所職員が担当し、外部での活動は介護職員が担当
- ・ 福施設長
- ・ 事業や企画担当者
- ・ 地域連携担当者
- ・ 介護主任

(2) 学校への働きかけを図る上で、地元自治体(区市町村)との連絡調整について担当窓口の状況をお答えください。その他を具体的に

- ・ 学校と直接連絡調整
- ・ 学校へ直接連絡している
- ・ 学校へ直接アプローチ
- ・ 担当者
- ・ 社協・ボランティアセンター担当
- ・ 社会福祉協議会
- ・ 市役所
- ・ 社会福祉協議会
- ・ 区及び社協が就職説明会を後援
- ・ 事務
- ・ 自治体との連絡はしていない
- ・ 学校の担当者
- ・ 中学校ボランティア部顧問
- ・ 自治体とは上記を目的に特に連絡はとっていない
- ・ 専門学校なので学校に直接
- ・ 学校に直接問い合わせることが多い。
- ・ 地域コーディネーター
- ・ 各学校の担当教員

問4 福祉施設から学校に対する働きかけについて取り組みが難しい状況についてご回答ください。(取り組み未実施の事業所のみご回答ください。)

(2) 近隣の学校への取り組みが難しい要因として考えられるものについてお答えください。(あてはまるものすべて選んでください)。その他を具体的に

- ・ 受け入れ窓口が明確ではない
- ・ 事業所独自ではなく法人本部で行っている。
- ・ 学校が協力的でない。
- ・ 特になし
- ・ 難しいケースはない
- ・ 必要性が感じられない
- ・ 学校、施設間での直接的な連携がない
- ・ 取り組みすれば多少応じてくれるとは思いますが。
- ・ 開設後間もないため
- ・ 実習担当者がいないため
- ・ 学校のカリキュラムやニーズが分からない
- ・ 継続的・定期的な採用が難しいため。
- ・ 常勤職員は法人で実施
- ・ 特養担当者が一括で実施中
- ・ 現在新卒採用していない
- ・ 現状手が回らない為
- ・ 人手が足りない
- ・ 担当者との日程調整困難
- ・ 一般的な交流はしても、育成や確保に結び付けることまでは考えていない
- ・ 教師の移動による引継ぎ不足
- ・ 法人、施設単位で行っているため、必要性を感じない。
- ・ まだアプローチを行ったことがないのでわからない。

- ・ 施設側職員の不足により指導する人員が確保できないため
- ・ 定期的に学生が実習にきている。
- ・ そもそもどのように行ったらよいか分からない
- ・ 法人内の他高齢施設が学校からのボランティア等を受け入れている為、当施設単独では取り組みを行っていない。
- ・ 新規施設の為、人的時間的余裕がない。
- ・ 調整ルートが掴めない
- ・ 施設にゆとりがない
- ・ 必要性を感じていない。
- ・ こちらの施設が開設したばかりのため
- ・ 法人としては取り組んでいるので、デイサービス事業所としては行っていない。
- ・ 開設しており、近隣へまだ行けていないため。
- ・ 施設が開設後まもなくで、体制が整っていなかったため
- ・ 高齢者福祉説に対する認知度が低いため。
- ・ 学校がいじめ対策やクレーム対応で多忙なため
- ・ 配置人数が限られているため
- ・ 福祉施設側に取り組む準備が出来ない。それだけの時間、人材がない

(3)(2)で回答した要因の解決のためにどのようなことが必要だと考えますか。

- ・ 現状の福祉施設に対するイメージが変わらない限り新卒の求人応募がない状態は続くと思われる。また、近隣には小中学校しかなくアプローチを行うにも行えない
- ・ 受け入れ窓口が明確であれば、取り組めると思います
- ・ 事業所が直接教育委員会働きかけが必要で、間に行政、社協が入ることは必要です。しかし、その担当者の理解の差にネガティブなイメージを払しょくできるか否かです。色々な取り組みが行われていますが、そこを改善しなければよい結果は期待できません。一般教諭、親の壁は想像以上に高いです。生徒の介護に対する志が高くてそれらの意向に左右されるの現状です。
- ・ 学校に協力してもらいたい。
- ・ あきらめないでアプローチ
- ・ 介護職員の人材不足を支援する行政側の窓口をすべきとを考えます。
- ・ 高校・大学向けには各施設単体でのPRは難しいと思われるので、福祉人材センターなどを通じて各校所在地の近隣施設を紹介するなどの方法が有効と考える。中学校は、義務教育課程の中にあるため教育委員会や行政と調整を図る必要があるように思える。
- ・ 介護人材については、現在のような売り手市場では専門学校が積極的に生徒を売り込まなくても就職は出来る状態にあるので、学校側からのアプローチは殆ど期待できない。
- ・ 地道に関係を作っていくことを心掛けています。
- ・ 当施設の職員に余裕が持てるような財政面などの運営の向上が必要である。現在、当施設単独での学校への働きかけは難しい所であるが、同法人の他事業所から学校に働きかけを行っており、これに当施設が部分的に協力する場合がある状況です。
- ・ 養護老人ホーム支援員については通常の募集で充足している。
- ・ 窓口がどこなのか分からない。具体的な方法について検討の機会がない
- ・ 講義を行う際、社協より連絡を頂き依頼を受けるが、学校に地域福祉の授業に対する必要性を感じているか、施設としても積極的に足を踏み込んで良いものか、相互のニーズを調査する事が第1に必要と思います。窓口も社協のみならず、学校・施設中心に担当を決めるなどして取り組めたらより効果的だと思います。
- ・ アクションを起こせばかわりは増えると思いますが、山間部で近隣の小中学校は、各学年10人もいない状態。夏体験ボラで、来てもらいやすいように、短時間での参加や保護者同伴での参加、行事等の見学も可能等、柔軟な対応を今年度より図っている。
- ・ 施設の運営がもう少し軌道に乗った時点で速やかに取り組む予定です。施設としての安定感の確保が喫緊の課題となっています。
- ・ 実習担当としての研修を受けなければならない。
- ・ 施設から出向いて知っていた活動をしていくことは重要。介護・福祉出前講座として、学校の負担とならない、福祉教育の在り方を提案しまずは先生に現状を知っていただくこと。
- ・ 現状では互いのコミュニケーション不足が考えられます。学校は異動やカリキュラムの変更があり、担当変更により例年通りのことが行われない場合もあります。施設単位では互いに相談しやすい関係作りを継続して行く事を心掛けています。
- ・ 介護や福祉を身近なこととして捉えてもらえるよう、現場見学やボランティア活動等を積極的に受け入れるとともに、学校で認知症サポーター養成講座を開催するなどの取り組みが必要と考える。
- ・ 施設内のキャリアパスなど人材活用の見直しを現在検討中。現在、近隣中学校において授業の一環として職場体験を受け入れているが、今後は採用活動だけでなく施設の認知向上や社会貢献を兼ねて、何らかの取り組みができないか検討しているところです。
- ・ 同法人の特養と在宅サービス部門が取り組んでおり、当園単体としては現在動いていない。
- ・ 教育と福祉をつなげるコーディネーター役が欲しい。
- ・ 積極的な働きかけ
- ・ 交流行事や体験実習を、育成目的や確保につながるようなプログラムにする。
- ・ 学校側の理解があり、その都度対応して頂いている。
- ・ 学校教育の一環として、福祉業界について、介護実践のみならず、組織運営などの福祉マネジメントについても、学ぶ機会を設けていただき、面白さを実感していただく。
- ・ マスメディアでイメージを悪い方向で決めつけてしまっている。超高齢化社会において必要不可欠な仕事である以上看護師のように地位向上と賃金が生活を保障できるレベルに上げる
- ・ 自治体における人材育成の必要性において理解を深めて欲しい。
- ・ 賃金面での処遇の改善
- ・ 当施設は、併設事業所であり、法人、施設、特養、デイなどで近隣の小中学校、高校、大学などとの交流を行っています。区の委託事業である在宅介護支援センター単体では、その必要性を感じませんので、問1の設定で「行っていない」を選択しました。
- ・ 地元自治体の担当者への働きかけ
- ・ 情報提供の工夫、継続した発信。他の学校での成功事例をつくる。
- ・ 学校行事への協力や、連携できる事業の案内等、日ごろから密に連絡を取り、顔の見えるやすい関係性を構築する必要がある。
- ・ 職員を増やす努力はしているが職員充足状態になっておりません。
- ・ 世間の介護イメージが悪く、普通科学校の先生からも学生に対して介護の道への門を閉ざしている現状があると聞きます。現在は福祉学科のある学校から活動をさせて頂いておりますが、今後は普通科高校や一般向けに活動を通して、介護のイメージアップ、専門性のある職業だと伝えられればと思います。
- ・ 学校と連絡を取り、何某かの取り組みを行う必要があると日々感じてはいましたが、現実には行えないです。ご指導頂ければと思います
- ・ 学校への取り組みは必要だと十分に認識はしているが、実際には行っておらず、今後の課題と捉えている。是非、ご指導頂きたい。
- ・ 難しいと感じたことがない。
- ・ 介護の事以前に、高齢者と関わる・接する事、高齢者とは！という事も知るべきではないかと思えます。
- ・ 次世代の介護人材確保を考えたとき、小学生から介護・福祉について、介護職員による授業と何回かに分けての施設訪問等が必要である。また、高校では単位として介護施設の体験も加えてほしい。
- ・ 社会福祉士取得のため、実習が必須であることから、定期的に現場実習にきている。ただ、通年で実績をみると多くはない感じがする。
- ・ 区立小中学校の学区内にある福祉施設への見学実習など、行政が積極的にバックアップすべき。

- ・施設を集めて、取り組みに関しての事例報告や必要性について、いまいちど研修会などを開催していただけるとありがたいです。
- ・日頃から開かれた施設として、地域交流、地域貢献を行う必要がある。顔と顔が見える関係作りが必要。
- ・施設単位で学校、地域への取り組みを行うのではなく、高齢、児童、障害等施設の種別を問わず法人全体として働きかけを行うべきであると
- ・施設内での体制が取れ次第、速やかに実行したい。
- ・手続き上のルールなどが分かり易くなっていると良いのではないのでしょうか。どちらかというと、当方から積極的に働きかけたのではなく、実習等の受入を地道にやってきたことが外部に評価されて、働きかけをされたので、これから、主体的に働きかける場合のルールが分かると
- ・人員(人材)確保
- ・保育園・幼稚園・小学校低学年等から、社会福祉について身近なものとして教育し、交流や体験を通じてつながりを設ける仕組みが必要と
- ・施設は、小規模で、定期採用は募集をやっていないため、また欠員が出た場合のみ。今の所、ハローワークの募集で解決出来ているので、学校に働きかける必要性を全く感じていないのが現状です。
- ・開設3年目を向かえるため今年度はハローワークへ来年度新卒採用を出す準備をしています。
- ・デイサービス事業では正規職員の数に限りがあるため、新卒採用が難しい。デイサービスでも正規職員を増やせる給与体系の構築、または介護報酬が必要と考える
- ・学校へ直接行けばよいのか、行政に窓口がありそこからアプローチすればよいのかわからないため、情報を頂けると取り組みがしやすくなると思います。
- ・施設での育成方針が出来上がってから、順次学校へアプローチを行う予定である。
- ・個人の資源(ボランティア精神等)に頼らない制度の在り方が今後必要であると思われる。
- ・介護職は夜勤があるため、近隣からの通勤が理想だが、介護関係の専門学校や大学・大学院などはない。高校はいくつかあるが、介護に対する関心度はとても薄い。また、年齢的に18歳という若さから、身体介護には抵抗があるようだ。中学生に至っては、職場体験学習には来るものの、本来は他企業や保育園に行きたかったが、抽選に洩れ致し方なく老人介護施設に体験に来たという声が聞かれているのが現状だ。しかし、この人材不足を解消するためには、学校への働きかけは必要になってくるかもしれない。一般企業などの取り組みを参考に、学校訪問などから始めていきたいと思う。
- ・職業としての福祉系の仕事の魅力、やりがい等について発信する体制づくりが必要と感じています。
- ・まず、学校側と地元の自治体における「介護や福祉業界との関わりを増やす機会」が少ないと感じています。特に市では福祉施設が多いため、近隣住民だけではなく学生を対象としたイベントなどを多く開催していただければ、学生の将来の選択肢として自然と「介護や福祉の仕事」が選べるようになると思います。
- ・国の方針などもあります。まず一般的に介護や福祉はどんな仕事なのかを気軽に知ってもらう機会が必要であると感ずます。
- ・近隣の小学校とは定期的に交流会を行っているが、人材確保や育成を目的とはしていない。必要性や方法については今後の検討課題。
- ・自治体への要望や働きかけが必要
- ・地域包括に人材を割けるような予算建てをしてほしい。
- ・教育分野からの理解と福祉分野の技術力向上。
- ・福祉施設が未来の担い手をどの様に考え、社会的役割を果たせるかを各事業所、自治体、国を挙げて取り組む。

福祉人材に関する学校の連携調査【調査票】

- | | |
|--------|--|
| 1 調査対象 | 東京都高齢者福祉施設協議会会員 1191 ヲ所 |
| 2 調査目的 | 福祉人材確保の取り組みの1つとして、若年層への高齢者福祉の理解促進が掲げられています。こうした「学校への働きかけ」について、どのような取り組みを行っているか、またどのように関係性を構築しているのかなど、現在の各会員施設の状況把握と今後の活動の参考にすることを目的とした調査を行う。 |
| 3 調査期間 | 平成28年6月30日～平成28年7月20日 |
| 4 実施方法 | 回答依頼文をメール・FAXにて送付し、WEBの回答フォーマットより回答を得る。 |

問1 福祉人材の確保や育成を目的とした、福祉施設から学校に対する働きかけについて下記の設問をお答えください。

(1) 取り組みの状況についてお答えください。

働きかけ（選択肢）

- ・ 行っている⇒問2・問3へ
- ・ 検討中⇒問4へ
- ・ 以前行っていたが、今は行っていない。⇒問4へ
- ・ 行っていない⇒問4へ
- ・ その他⇒問4へ

その他を具体的に（自由記述）

(2) 上記で選んだ取り組みを行っている理由をお答えください。

取り組みの理由（自由記述）

問2 取り組みの状況について教えてください。（取り組みを実施している事業所のみご回答ください。）

(1) 働きかけを行っている学校の種別について教えてください。

種別（選択肢）

- ・ 小学校
- ・ 中学校
- ・ 高校
- ・ 大学
- ・ 大学院
- ・ 専門学校

※以下のⅠ～Ⅴは取り組みの内容に関する設問です。対象としている学校種別ごとにご記入ください。

I 小学校

(1) 取り組み全般についてご回答ください。(実施しているものすべて選んでください)

取り組み(選択肢)

- ・ 学生向け施設パンフレット等の配布。
- ・ 教科(授業)の中で福祉・介護に関する内容を取り上げている。
- ・ 生徒会(学生自治組織)との交流・連携。
- ・ 部活動・クラブ活動との交流・連携。
- ・ 教員に福祉施設主催の会合へ出席を依頼。
- ・ 学校主催の会合への参加。
- ・ 保護者会(PTA)との交流・連携。
- ・ 学校を会場とした、町会・自治会との交流・連携。
- ・ その他

その他を具体的に(自由記述)

(2) 代表的な取り組みを1つ挙げてください。

具体的な実施内容例(自由記述)

(3) (2)における学校の対象者について教えてください。(あてはまるものすべて選んでください)

対象者(選択肢)

- ・ 1年生
- ・ 2年生
- ・ 3年生
- ・ 4年生
- ・ 5年生
- ・ 6年生

(4) (2)はどのくらいの頻度で取り組まれていますか。(あてはまるもの1つ選んでください)

頻度(選択肢)

- ・ 毎日
- ・ 2~3日に1回
- ・ 週に1回
- ・ 半月に1回
- ・ 毎月
- ・ 2~3ヶ月に1回
- ・ 半年に1回
- ・ 年に1回
- ・ その他

その他を具体的に(自由記述)

II 中学校

(1) 取り組み全般についてご回答ください。(実施しているものすべて選んでください)

取り組み（選択肢）

- ・ 学生向け施設パンフレット等の配布。
- ・ 教科（授業）の中で福祉・介護に関する内容を取り上げている。
- ・ 生徒会（学生自治組織）との交流・連携。
- ・ 部活動・クラブ活動との交流・連携。
- ・ 教員に福祉施設主催の会合へ出席を依頼。
- ・ 学校主催の会合への参加。
- ・ 保護者会（PTA）との交流・連携。
- ・ 学校を会場とした、町会・自治会との交流・連携。
- ・ その他

その他を具体的に（自由記述）

(2) 代表的な取り組みを1つ挙げてください。

具体的な実施内容例（自由記述）

(3) (2) における学校の対象者について教えてください。（あてはまるものすべて選んでください）

対象者（選択肢）

- ・ 1年生
- ・ 2年生
- ・ 3年生

(4) (2) はどのくらいの頻度で取り組まれていますか。（あてはまるもの1つ選んでください）

頻度（選択肢）

- ・ 毎日
- ・ 2～3日に1回
- ・ 週に1回
- ・ 半月に1回
- ・ 毎月
- ・ 2～3ヶ月に1回
- ・ 半年に1回
- ・ 年に1回
- ・ その他

その他を具体的に（自由記述）

Ⅲ 高校

(1) 取り組み全般についてご回答ください。（実施しているものすべて選んでください）

取り組み（選択肢）

- ・ 学生向け施設パンフレット等の配布。
- ・ 教科（授業）の中で福祉・介護に関する内容を取り上げている。
- ・ 生徒会（学生自治組織）との交流・連携。
- ・ 部活動・クラブ活動との交流・連携。
- ・ 教員に福祉施設主催の会合へ出席を依頼。

- ・学校主催の会合への参加。
- ・保護者会（PTA）との交流・連携。
- ・学校を会場とした、町会・自治会との交流・連携。
- ・その他

その他を具体的に（自由記述）

(2) 代表的な取り組みを1つ挙げてください。

具体的な実施内容例（自由記述）

(3) (2) における学校の対象者について教えてください。（あてはまるものすべて選んでください）

対象者（選択肢）

- ・1年生
- ・2年生
- ・3年生

(4) (2) はどのくらいの頻度で取り組まれていますか。（あてはまるもの1つ選んでください）

頻度（選択肢）

- ・毎日
- ・2～3日に1回
- ・週に1回
- ・半月に1回
- ・毎月
- ・2～3ヶ月に1回
- ・半年に1回
- ・年に1回
- ・その他

その他を具体的に（自由記述）

IV 大学・大学院

(1) 取り組み全般についてご回答ください。（実施しているものすべて選んでください）

取り組み（選択肢）

- ・学生向け施設パンフレット等の配布。
- ・教科（授業）の中で福祉・介護に関する内容を取り上げている。
- ・生徒会（学生自治組織）との交流・連携。
- ・部活動・クラブ活動との交流・連携。
- ・教員に福祉施設主催の会合へ出席を依頼。
- ・学校主催の会合への参加。
- ・保護者会（PTA）との交流・連携。
- ・学校を会場とした、町会・自治会との交流・連携。
- ・その他

その他を具体的に（自由記述）

(2) 代表的な取り組みを1つ挙げてください。

具体的な実施内容例（自由記述）

(3) (2) における学校の対象者について教えてください。（あてはまるものすべて選んでください）

対象者（選択肢）

- ・ 1年生
- ・ 2年生
- ・ 3年生
- ・ 4年生

(4) (2) はどのくらいの頻度で取り組まれていますか。（あてはまるもの1つ選んでください）

頻度（選択肢）

- ・ 毎日
- ・ 2～3日に1回
- ・ 週に1回
- ・ 半月に1回
- ・ 毎月
- ・ 2～3ヶ月に1回
- ・ 半年に1回
- ・ 年に1回
- ・ その他

その他を具体的に（自由記述）

V 専門学校

(1) 取り組み全般についてご回答ください。（実施しているものすべて選んでください）

取り組み（選択肢）

- ・ 学生向け施設パンフレット等の配布。
- ・ 教科（授業）の中で福祉・介護に関する内容を取り上げている。
- ・ 生徒会（学生自治組織）との交流・連携。
- ・ 部活動・クラブ活動との交流・連携。
- ・ 教員に福祉施設主催の会合へ出席を依頼。
- ・ 学校主催の会合への参加。
- ・ 保護者会（PTA）との交流・連携。
- ・ 学校を会場とした、町会・自治会との交流・連携。
- ・ その他

その他を具体的に（自由記述）

(2) 代表的な取り組みを1つ挙げてください。

具体的な実施内容例（自由記述）

(3) (2) における学校の対象者について教えてください。（あてはまるものすべて選んでください）

対象者（選択肢）

- ・ 1年生

- ・ 2 年生
- ・ 3 年生

(4) (2) はどのくらいの頻度で取り組まれていますか。(あてはまるもの1つ選んでください)

頻度（選択肢）

- ・ 毎日
- ・ 2～3 日に 1 回
- ・ 週に 1 回
- ・ 半月に 1 回
- ・ 毎月
- ・ 2～3 ヶ月に 1 回
- ・ 半年に 1 回
- ・ 年に 1 回
- ・ その他

その他を具体的に（自由記述）

問 3 取り組みにおける窓口や担当について下記の設問にご回答ください。

(1) 事業所における担当はどなたが担っていますか。

事業所の担当（選択肢）

- ・ 施設長
- ・ 相談員
- ・ 事務
- ・ ボランティアコーディネーター
- ・ 法人本部事務局
- ・ その他

その他を具体的に（自由記述）

(2) 学校への働きかけを図る上で、地元自治体（区市町村）との連絡調整について担当窓口の状況をお答えください。

連絡調整の担当（選択肢）

- ・ 担当窓口がある
- ・ 特に担当窓口はないが、こちらの問い合わせに応じてくれる
- ・ 特に担当窓口はない。

対応する窓口（選択肢）

- ・ 福祉所管
- ・ 教育所管
- ・ その他

その他を具体的に（自由記述）

問 4 福祉施設から学校に対する働きかけについて取り組みが難しい状況についてご回答ください。(取り組み未実施の事業所のみご回答ください。)

(1) 今までに学校へのアプローチをとったことがありますか。

アプローチの状況 (選択肢)

- ・ はい
- ・ いいえ

(2) 近隣の学校への取り組みが難しい要因として考えられるものについてお答えください。(あてはまるものすべて選んでください)

要因 (選択肢)

- ・ 地元自治体 (区市町村) に担当がないため。
- ・ 福祉と教育の行政担当で調整が行われていないため。
- ・ 他分野から学校との連携を依頼する場面が多いため。
- ・ 福祉・介護に対する評価が低いため。
- ・ 学校長の方針によるため。
- ・ 担任や教科主任の意向によるため。
- ・ PTA や保護者の意向によるため。
- ・ その他

その他を具体的に (自由記述)

(3) (2) で回答した要因の解決のためにどのようなことが必要だと考えますか。

解決のために必要なこと (自由記述)

東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会
平成28年度 介護人材対策委員会 名簿

任期 平成27年4月1日～平成29年3月31日

No.	選出区分	所属	氏名
1	委員長	たちばなホーム	羽生 隆司
2	副委員長 総務委員長	博水の郷	田中 雅英
3	中央	千代田区立一番町特別養護老人ホーム	今井 隆
4	城北	飛鳥晴山苑	佐長 史朗
5	城東	—	—
6	墨東	みどりの郷福楽園	三浦 洋生
7	城西	和泉サナホーム	結城 拓也
8	城南	大田翔裕園	神成 大介
9	八王子	みやま大樹の苑	稲垣 瑞恵
10	南多摩	かりん・町田	川亦 清夫
11	北南	至誠キートスホーム	栗原 文男
12	北北	シャローム東久留米	我謝 悟
13	青梅	青梅天使園	藤本 稔巳
14	秋川	社会福祉法人 芳洋会（ひのでホーム）	神田 明啓

○東京都高齢者福祉施設協議会について

東京都社会福祉協議会（東社協）東京都高齢者福祉施設協議会は、東京都内の特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、地域包括支援センター、在宅介護支援センター、デイサービスセンターを会員とする組織です。

会員が相互に研さんを重ねながらサービスの質を高め、利用者主体による高齢者福祉の発展を目的として、施設で働く職員を対象とした研修会や実践研究発表会（アクティブ福祉 in 東京）、調査研究活動、制度の拡充を目指した提言活動（ソーシャルアクション）などを行っています。



東京都高齢者福祉施設協議会
イメージキャラクター「アクティブル」

福祉人材に関する学校への取り組み調査 報告書

2016年12月

《発行》

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会

介護人材対策委員会

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1

（電話）03-3268-7172

（ファックス）03-3268-0635

（メール）kourei@tcs.w.tvac.or.jp

※無断 転載 ・ 複製 を禁じます。